

高等学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

農業・工業・商業

東京都教職員研修センター

目 次

I 主題設定の理由	-----	2
II 実践事例 1 主体性を高める指導法の研究	-----	5
III 実践事例 2 資格取得のための指導を通して	-----	17
IV 実践事例 3 教材開発「コンビニエンスストアを題材にした授業の実践」	--	26
V 成果と課題	-----	36

研究主題 主体性を高める専門教育のあり方

I 主題設定の理由

1 はじめに

教育課程実施状況調査や国際数学・理科教育調査、OECD生徒の学習到達度調査（PISA）等の近年の全国的・国際的な調査結果からは、我が国の子どもたちには判断力や表現力が十分に身に付いていないこと、学習意欲が必ずしも高くないこと、学習習慣が十分に身に付いていないこと、人やものとかかわる力が低下していることなどが指摘されている。また、高い失業率、フリーターやニートとよばれる若年者の増加など、若者の勤労観・職業観についても各方面から課題が指摘されている。

中央教育審議会答申（平成15年10月）では、「これからの未曾有の激しい変化が予想される社会においては、一人一人が困難な状況に立ち向かうことが求められるが、そのために教育は、個性を發揮し、主体的・創造的に生き、未来を切り拓くたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えて生涯にわたり学び続ける力が必要である」としている。このために「子どもたちに求められる学力は、知識や技能もちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力である」としている。

学習指導要領では、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実努力をしなければならない」としている。このことは、専門教育において、個に応じた指導の一層の充実を図る中で、職業に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得と柔軟な創造力や主体的な課題解決力の育成を図っていかなければならないことを意味している。

専門高校は、勤労観・職業観を培い、職業生活に必要な専門的知識や能力を身に付け、我が国の産業経済の発展へ大きく寄与し、職業人の育成などの面で重要な役割を果たしてきた。専門高校の教育の特長は、実験・実習に多くの授業時間をあて、インターンシップなど職業につながる実際の・体験的な学習を重ねながら、勤労観・職業観の意識を高めていくところにある。将来の就職や進学に生かされる専門教科の学習は、生徒の目的意識を明確にし、ものづくり等の実践は課題解決能力を涵養し、資格取得への挑戦は生徒の向上心をはぐくんできた。専門高校は、このような実践を通して、そこで学ぶ生徒による個性の發揮や自己実現の達成や誇りをもつことの大切さを教えている。さらに、社会とのかかわりや社会的な責任を果たすことの重要性、豊かな感性や創造性を養う総合的な人間教育の場としても機能している。私たちは、今後も専門高校におけるこのような役割の重要性に鑑み、専門高校に学ぶ生徒たちに対し得意な分野での技術や技能を身に付け、自らの勤労観・職業観を確立し、誇りをもって社会で活躍することを目指し、教育

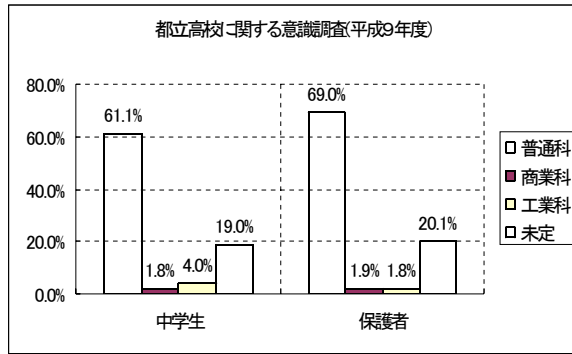


図1 中学校2年次学科別進学希望調査

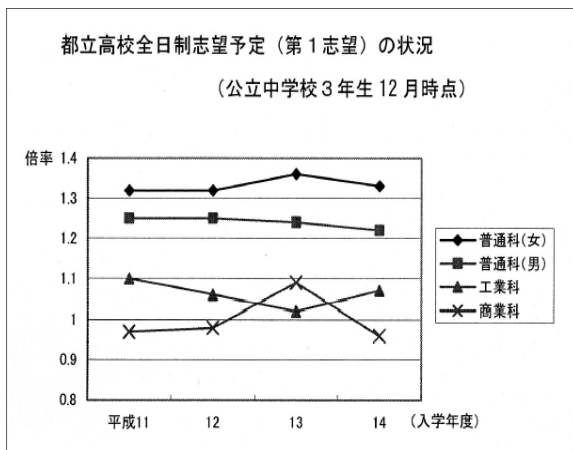


図2 都立全日制都立高等学校志望倍率の推移

表1 都立高校における学科別生徒数

区分		生徒数	(比率)
合計		136,069	100.0%
普通科		106,775	78.5%
専門教育を主とする学科	農業	2,529	1.9%
	工業	11,519	8.5%
	商業	9,023	6.6%
	水産	107	0.1%
	家庭	955	0.7%
	情報	227	0.2%
	その他	1,099	0.8%
	小計	25,459	18.7%
総合学科		3,835	2.8%

(平成17年度 東京都学校基本調査報告)

活動を営む必要がある。

今日の私たちを取り巻く環境の変化、とりわけ科学技術の高度化、情報化、国際化、少子高齢化等の社会や経済の変化は、産業構造・就業構造の変化をもたらし、専門高校における教育を取り巻く状況を変化させた。中学校卒業後に高校に進学する者の割合が96%を超える現状の中、図1に示すように、中学校2年次の学科別進学希望調査によると、商業科や工業科への進学を希望する割合は5%前後である。また、中学校3年生の入学試験直前の調査(図2)から、普通科と比較し、商業科や工科への志望倍率が低く入学しやすい状況となっている。

一方、平成17年度における都立高校の商業科・工業科に学んでいる生徒数は、表1に示すように20,542人で、全都立高校生徒数の15.1%にあたる。このことは、商業科や工業科などの専門高校を十分に検討することなく、入学しやすいなどの理由から受験する学校を決めている生徒がいる可能性を示しており、専門高校で学ぶことの意義や明確な目的意識がないまま専門高校に進学する生徒が一部にいたり考えることができる。学校現場では、専門的な知識や技術・技能を学ぶ意欲や目的意識をもてない生徒も一部にみられ、「学習意欲がわからない。」「学習の目的が分からない。」という生徒の声を聞くこともある。また、図3に示すように、専門学科は、普通科よりも中途退学する割合が高く、専門高校はその対応策を積極的に講じる必要がある。

このような状況の中で、私たちは生徒の学習意欲を喚起し、学習を受け身でとらえている生徒たちが専門教育を通じて主体的に課題に取り組んだり、参加したりするためにはどのような働きかけが必要なのかを考えた。そこには何らかの教員の働きかけが意図的・計画的に行われていなければならない。

そこで、本部会では専門教育のもつ実践的な指導内容や、実社会と深く結び付いた具体的な

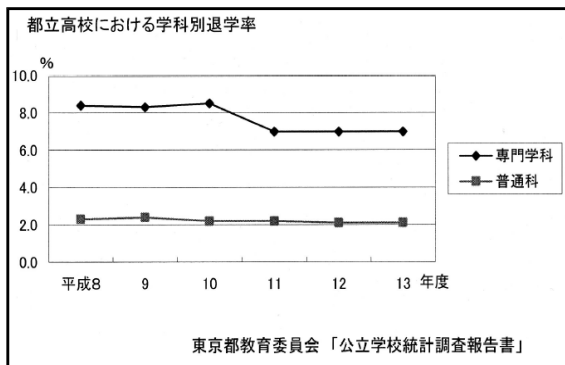


図3 都立高校における学科別退学率

教育内容を生かし、生徒の学習に対する興味・関心を高め、職業や自己の将来について考えさせる授業を展開する中で、生徒の主体性をより高めるための研究を行うこととした。そこで、研究の主題を学習指導要領の趣旨や、専門高校の生徒の実態を踏まえ、「主体性を伸ばす専門教育のあり方」と設定した。

2 研究の方法

都立高校生の6人に1人が専門教育を受けている現状があり、その役割の重要性がうかがえる。そのうち、農業科・工業科・商業科の生徒数は、23,071人で、専門教育を主とする学科に学んでいる生徒数の90.6%に相当する。それぞれの学科は特色をもっており、専門教育の指導方法においてもそれぞれ創意工夫を凝らした指導を展開している。このことを踏まえ、各学科からなる研究グループをつくり、学習に対する興味や関心が十分に引き出されていない生徒や授業に対する姿勢が消極的な生徒に焦点をあて、専門教育の特色を生かす授業を展開する中で、生徒の意識の変容を促し、学習に対する主体性の伸長を図るための、専門科目の効果的な指導方法について仮説を立て検証することとした。

本部会では、生徒の主体性を伸ばす専門教育のあり方について、そのアプローチの方法を①指導法、②資格取得、③教材研究の3つのグループに分けて研究を進めた。各グループは、それぞれに課題を設定し、それらの課題を解決するための仮説を立て、アンケート調査及び検証授業を行うことで仮説を実証することとした。指導法、資格取得、教材研究の3つのグループは、個に応じた指導の一層の充実を図ることを前提に以下の研究仮説を設定した。

ア 指導法グループ

専門高校では、職業をテーマとした指導を展開する中で、自らの学ぶ目的を認識させ、働くことについて自ら考える力をもたせることにより、自己の将来や職業について考える姿勢が培われ、生徒が主体的に授業に取り組もうとする意識が高まるであろう。

イ 資格取得グループ

資格取得の指導において、学習内容と職業との関連性や将来の職業選択に及ぼす影響等について、考えさせる指導を工夫し展開することで「働くこと」への関心や学習意欲が高まり、生徒の主体性を増すことができるであろう。

ウ 教材研究グループ

教材作成において、生徒からの情報や発想を題材とし教材化することで、授業内容に関心をもつとともに、指導内容に対する評価的視点が培われ、学習に対する主体性が高められるだろう。

II 実践事例1 ー主体性を高める指導法の研究ー

1 研究仮説

専門高校では、職業をテーマとした指導を展開する中で、自らの学ぶ目的を認識させ、働くことについて自ら考える力をもたせることにより、自己の将来や職業について考える姿勢が培われ、生徒が主体的に授業に取り組もうとする意識が高まるであろう。

2 研究仮説設定理由

専門高校は戦後の高度経済成長期において、中堅技術者や会計部門の事務職員等の養成という産業界のニーズに応じた職業教育を行ってきた。しかし、Iの主題設定でも述べたように、現在の専門高校に入学してくる生徒の一部には、目的意識が明確でないなど、学習に対する準備が不十分なものもいる。また、「専門高校検討委員会報告書（東京都教育委員会平成14年5月）」によると、専門高校は普通科高校に比べ中退率が高い傾向にあり、考えられる原因として次の3点を指摘している。

- ① 進路の選択に際し、身に付けるべき知識・技術に重きを置かず、学力により高校を選択する傾向が強いこと。
- ② 入学時の基礎学力が不足し、規範意識が欠如している生徒が少なくないこと。
- ③ 普通科から志願変更をして入学する生徒も多く、目的意識をもてず、安易に退学を選んでしまう生徒も多いこと。

また、専門高校の現状は「各専門高校の教職員はそれぞれの学校において日々の努力を積み重ねているにもかかわらず、入学希望者数・受験倍率・中退者数・進学者数など、どの分野においても、普通科高校との比較はもとより、専門高校の間でも大きな差が出ている。高校への進路選択が学力に大きく左右される状況もあり、思うように改善が進まず苦勞している学校も少なくない。各専門高校の在学生徒の実態は多様であり、どの高校においても画一的な学習内容を実施するのでは効果は上がらない。さまざまな状況に対応した質の高い特色ある教育活動の展開が求められる。」とも指摘している。

専門高校では、自分の将来や職業について十分に検討することもなく、専門高校で学ぶ目的を見いだせずに入學してくる生徒も少数いる。その結果、学習に対する態度が消極的になったり、将来の目標や希望する進路が見付けられず、悩みながら学校生活を送る生徒が増えていると思われる。

このような現状における課題として、私たちのグループでは、これまでの学習指導は、明確な目的をもった生徒を対象に専門的な知識と技術の習得を中心に行ってきたが、一方で目的を見いだそうとする生徒に対し、専門高校で学ぶ目的や将来の目標について考えさせる計画的な働きかけが十分になされていなかったのではないかと考えた。

私たちは、以上のような状況をもとに、教科・科目の指導に職業をテーマとした題材を取り入れ、何のために学ぶのか、自分はどのような職業に就くのかなどについて考える授業を計画し展開する。その中で、生徒が自己を振り返る機会を設けることにより、自ら考える

姿勢が培われ、結果的に生徒の主体性が高められるのではないかと考えた。また、専門高校における専門科目は実際の職業と何らかの結び付きをもっているため、農・工・商部会の研究テーマとしても適切なものと判断した。以上の理由からグループにおける研究仮説を前出のように設定した。

3 研究の方法

本来であれば、学習に対する主体性の変化を確認するにはある程度の時間が必要だと考えられるが、本研究で実施できる検証授業は数回であり、行動の変化としてとらえるには無理がある。そこで、この研究では、生徒の授業に取り組む姿勢等の変化をとらえ、仮説を検証することとした。以下にその概要を示す。

- (1) 検証授業のねらいを次の2点とし、それぞれ授業計画を立案し実施する。
 - ア 各学校で行われている様々な指導と、社会人として高校生に求められている資質や能力について、生徒一人一人が理解し、専門高校で学ぶことの意味について考える機会とする。

イ 「13歳のハローワーク」(村上龍著、幻冬舎)を教材に、働くこ

との意味や生徒自身の責任で職業を選択することの意味を生徒一人一人に考えさせる。そのことで、各自が職業を選択する時期にあることや希望する職業に就くために何が必要なのかなど、各自の目標をもつきっかけとする。

- (2) 検証授業前に「授業に取り組む姿勢」についてのアンケート(図1)を実施する。検証授業の前にアンケートを行い、これまでの授業に対する状況を踏まえた内容で回答するように、生徒に説明を行う。
- (3) 「社会人の常識について考える」「職業について考える」をテーマに検証授業を実施し、職業観について生徒と考え、各自の学校生活を振り返る時間を設ける。
- (4) 検証授業実施後に、「授業に取り組む姿勢」についての2回目のアンケートを実施し、1回目のアンケート結果と比較検討を行う。
- (5) 生徒の専門科目に対する意見等を分析し、学習に対する主体性の変容を評価する。

「授業に取り組む姿勢」についてのアンケート

生徒の皆さんは、このアンケート項目に回答することにより、自分自身の授業に取り組む姿勢と職業に対する考え方を見つけ直す機会にするために、真面目な態度で回答してください。
なお、回答内容が、あなたの成績に影響することはありません。

1. 下記に学年、組、番号等を記入して下さい
()年()組()番 名前()
授業科目名()
実施日 平成17年()月()日()曜()時間目

2. アンケート
a. あなたの授業に取り組む姿勢を聞きます
次の質問項目について はい・いいえ のどちらかを選択して○をつけて下さい

番号	質問項目		
1	授業に必要なものを準備した	はい	いいえ
2	授業の始まるの時間を守った	はい	いいえ
3	服装の規定を守った	はい	いいえ

次の質問項目について下の選択群A～Dの当てはまるもので回答し、所定の欄に○を記入して下さい
A 強く思う B だいたいと思う C あまりそうは思わない D 全くそうは思わない

番号	質問項目	A	B	C	D
1	授業の内容を理解しようとした				
2	授業に興味をもった				
3	授業に意欲をもった				
4	学習した内容が身に付いた				
5	授業を受けて充実感が得られた				
6	授業の内容に関連した仕事に興味をもった				

b. 自由意見

例)

- ・将来どのような職業に就きたいか
- ・専門教科で学んだ内容が、どのような場面で自分の役に立つと思うか
- ・授業を通して考えたこと
- ・授業に対する前向きな意見

などを書いて下さい

図1 アンケート用紙

4 実践研究

(1) 5校における検証授業

グループのメンバーそれぞれが、検証授業のねらいを踏まえ、授業計画及び指導案を作成し、次のような授業を行った。

ア A工業高等学校

① 検証授業実施校とアンケート対象生徒数

A工業高等学校 全日制課程 (65名)

② 実施科目 「デザイン史」

③ 授業単元 第2節「古代」第4「ローマ」、第3節「中世」第1「初期キリスト教文化」

④ 授業の構想 本単元では、古代ギリシャに続いて古代ローマにおける造形的特徴について学習する。全体を通して、各時代の特徴的な造形が発生した要因となる文化や社会制度、実際の制作に携わった人々の職種や制作方法などについて触れ、職業という考え方が現代社会にも通じていることを理解させる。あわせて、働くという行為が人間にとって重要な要素であることも説明



図2 A工業高校における検証授業の様子

し、職業とのつながりから専門教科への関心をもたせ、学習意欲の向上を図ることを目的とする。

⑤ 指導計画 単元総時間数4時間

第4「ローマ」(3時間)、第1「初期キリスト教文化」(1時間)

単位 2単位(毎週、日本と西洋を1時間ずつ実施)

⑥ 授業回数と指導項目

表1 A工業高校の単元の指導項目

授業回数	指導項目
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目のアンケート実施 ・「13歳のハローワーク」の提示 ・エトルリア美術、ローマ帝国
2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・「ローマの代表的な建築物」 建築手法、技術、そこに従事した人々の職業について説明 現代の建築技術との比較、当時との違い
3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・「ローマの住まいと暮らし」 なぜローマに人が集まったのか ローマではどんな仕事を獲得したのか 住居の種類 職業意識
4時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・「初期キリスト教文化」 今、当時の文化を学ぶことができる理由：復元技術について 愛知万博「サツキとメイの家のつくり方の」紹介 時代考証の重要性について説明 ・第2回目のアンケート実施

イ B工業高等学校

① 検証授業実施校とアンケート対象生徒数

B工業高等学校 全日制課程 (27名)

② 実施科目 「デザイン理論」

③ 授業単元 デザイン史

④ 授業の構想 本単元では、デザインの巨匠である建築家アントニ・ガウディのデザインについて学習する。ガウディの作品をビデオや画集により鑑賞し、ガウディの遺作となる建築作品「サグラダ・ファミリア」の後継者の生き方を職業教育に結び付け、生徒一人一人に職業に対する関心と専門教科に対する興味をもたせることを目的とする。また、画家の巨匠フィンセント・ファン・ゴッホについても作品を通じて、ゴッホやその弟子テオの生き方について学習する。最終的には、自分で画家やアーティストの画集を参考にして、経歴や作品鑑賞の観点などを調査し、レポートとして提出させる。

⑤ 指導計画 単元総時間数8時間 単位2単位

⑥ 授業回数と指導項目



図3 B工業高校における検証授業の様子

表2 B工業高校の単元の指導項目

授業回数	指導項目
1・2時間目	・第1回目のアンケート実施 ・「13歳のハローワーク」の提示
3・4時間目	・「13歳のハローワーク」 生徒が選んだ「13歳のハローワーク」の項目について、生徒からの質問や意見を 中心に説明する。 ・「アントニ・ガウディ」のビデオ鑑賞 ・3回目までの授業についてのアンケートを生徒全員に実施
5・6時間目	・「フィンセント・ファン・ゴッホ」のビデオ鑑賞
7・8時間目	・第2回目のアンケート実施 ・まとめ 職業や仕事に関して、もう一度、考え直す機会を設る。

ウ C工業高等学校

① 検証授業実施校とアンケート対象生徒数

C工業高等学校 全日制課程 (63名)

② 実施科目 「建築製図」

③ 授業単元 軒先まわり詳細図

④ 授業の構想 一つの建築物をつくる過程に関連する職業を書籍「13歳のハローワーク」の提示とこの書籍に掲載されていない職業も合わせて説明を行う。将来の職業を自らの意思と責任で選択し、専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるように説

明を行う。建築物をつくるには、多くの職業がかかわり、多くの人の手による図面が必要となる。また、専門的な知識や技能を習得する必要性があり、このことを、自分たちが学んでいることを伝える。

本単元では、軒先まわり詳細図（建築物の軒先まわり部分の縦断面図）を作成することによって、建築製図の基本である次の3点を習得できるようにする。①線の使い分けを習得する。②構造のしくみを理解する。③情報を正しく伝える図面を描く。

また、建築設計で必須となる図面作成を職業教育に結び付け、一人でも多くの生徒が建築に関係する職業に関心を持ち、専門教科に興味をもつことを目的とする。

- ⑤ 指導計画 単元総時間数9時間 単位2単位
- ⑥ 授業回数と指導項目

表3 C工業高校の単元の指導項目

授業回数	指導項目
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目のアンケート実施 ・「13歳のハローワーク」の提示 ・建築設計製図に関連する職業紹介
2～6時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・軒先まわり詳細図作成に取り組む（下書き） 課題となる図面の説明において、部材とそれを施工する職業との関連を交え、建物のイメージをより鮮明に印象付ける。
7～9時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・軒先まわり詳細図作成に取り組む（仕上） ・第2回目のアンケート実施

エ D 高等学校

- ① 検証授業実施校とアンケート対象生徒数

D 高等学校 全日制課程 （2名）

- ② 実施科目 「グリーンライフ」

- ③ 授業単元 グリーン・ツーリズム

- ④ 授業の構想 本単元ではグリーン・ツーリズムと農業のビジネスの可能性について、農村生活向上の視点から関心をもたせ、企画・運営に意欲的に取り組む態度を身に付けさせることをねらいとしている。職業について触れ、自ら活動している NPO の紹介とグリーン・ツーリズム体験について講義・協議・発表・視察を行う。授業回数3回の中で学習と職業のつながりを継続的に意識させ、学ぶ目的や働くことの必要性を考える力を付けさせる。



図4 D高校における検証授業の様子

- ⑤ 指導計画 単元総時間数6時間（2時間連続授業、授業回数3回）

⑥ 授業回数と指導項目

表4 D高校の単元の指導項目

授業回数	指導項目
1・2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目のアンケート実施 ・「13歳のハローワーク」の提示 ・ジョブジョブワールドによる職業検索 ・VTR「プロジェクトX『北のワイン 故郷再生への道』」視聴
3・4時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・+1万人プロジェクト、NPOによる島おこしの現状 ・NPO「八丈島観光レクリエーション研究会」の活動実績について 課題「島おこしプロジェクト：八丈ツアープログラムの作成」
5・6時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の発表と評価 NPO「八丈島観光レクリエーション研究会」の体験型観光ツアーの実際 ・第2回目のアンケート実施

オ E 商業高等学校

① 検証授業実施校とアンケート対象生徒数

E 商業高等学校 定時制課程（4名）

② 実施科目 「原価計算」

③ 授業単元 材料費の計算と記帳、材料消費高の計算

④ 授業の構想 予定価格により、消費高を計算することの意味、消費材料勘定を用いた記帳法を理解させる。予定価格法を用いた場合、実際消費高と予定消費高を比べるため、素材勘定と製造勘定・製造間接費勘定の間に、消費材料勘定を設ける必要のあることを理解させる。これらの内容を踏まえ、企業における判断の基準や価値観を通して、どのような人材を企業は求めているのかを考えさせる。



図5 E商業高校における
検証授業の様子

⑤ 指導計画 単元総時間数4時間 単位2単位

⑥ 授業回数と指導項目

表5 E商業高校の単元の指導項目

授業回数	指導項目
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目のアンケートを実施 ・「13歳のハローワーク」の提示 ・原価法の欠点について説明
2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・予定価格を用いた場合の説明 ・職業には様々な業種があり、将来の自身の職業や業種について考える
3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・予定価格法を用いた記帳法の振替関係の復習 ・企業における判断基準や価値感について考えさせる。 高校新卒者の採用に関する資料を配付する。 事例として、入社試験における、受験者2名の対照的な行動と企業の評価について説明し、生徒自身に考えさせる。
4時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・予定価格を用いた演習問題 現在の雇用の形が終身雇用から多様化しており、働き方の選択を生徒自ら考えなければいけないことを指摘し、第2回目のアンケート実施。

(2) アンケート集計結果及び考察

本研究の検証授業は、農業科（全日制）1校・工業科（全日制）3校・商業科（定時制）1校で、生徒数は農業科2人・工業科156人・商業科4人を対象に実施した。

今回、検証授業を行った5校における「授業に取り組む姿勢」についてのアンケート（図1）の集計結果を示す。図6・7はアンケートの質問項目のうち「授業に必要なものを準備した」「授業の始まりの時間を守った」「服装の規定を守った」の3点について結果をまとめたものである。結果はいずれの項目も1～3%のわずかな上昇であり、ここから有為な変化を読みとることはできなかった。

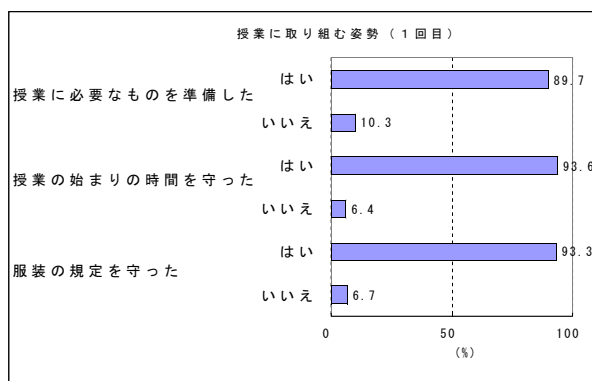


図6 授業に取り組む姿勢（第1回目）

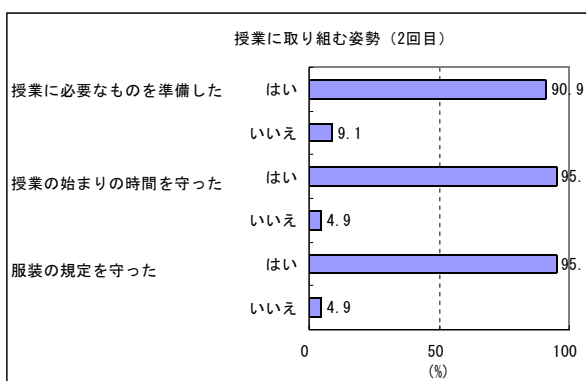


図7 授業に取り組む姿勢（第2回目）

図8・9は、上記以外の質問項目に関する結果をまとめたものである。回答について、各設問の「強くそう思う」と「だいたいそう思う」の合計を全体数に対する比として算出し分析を行った。1回目と2回目のアンケートを比較すると、いずれも高い水準（6以外は70%超）で顕著な差はみられないが、「3 授業に意欲をもてた」及び「5 授業を受けて充実感が得られた」の設問において10ポイント近くの伸びを見せた。「職業」を意識した授業を取り入れることで生徒の心の中で主体的に取り組もうとする態度が芽生えたことがうかがえる。細かい点を分析すると、設問2において、6以外「強くそう思う」の割合が増し、より積極的に授業に取り組もうとする生徒の意識の変化を読み取ることができる。

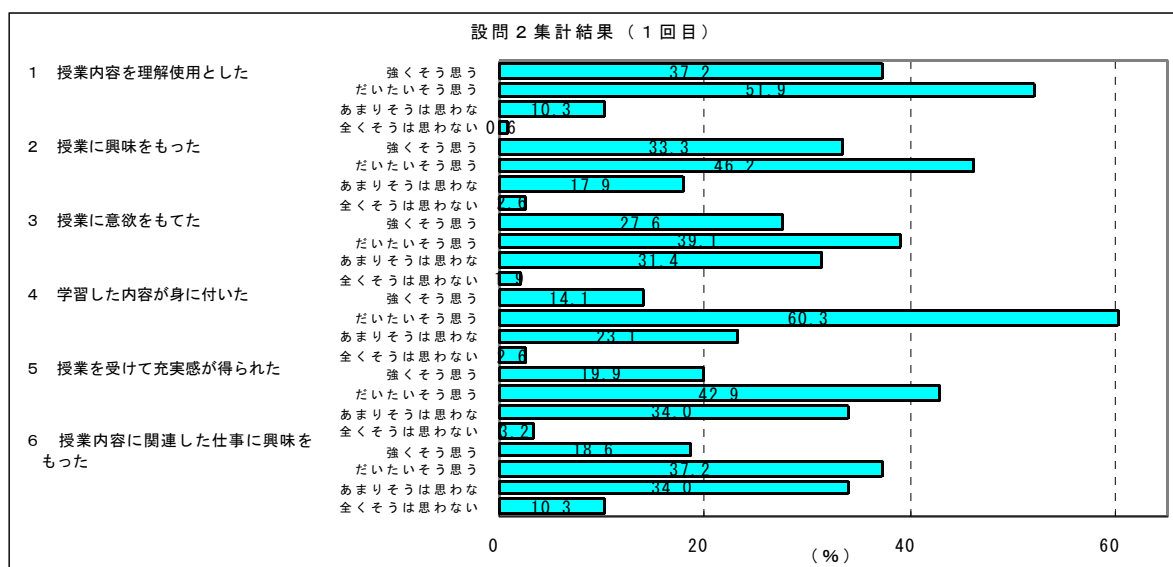


図8 設問2集計結果（第1回目）

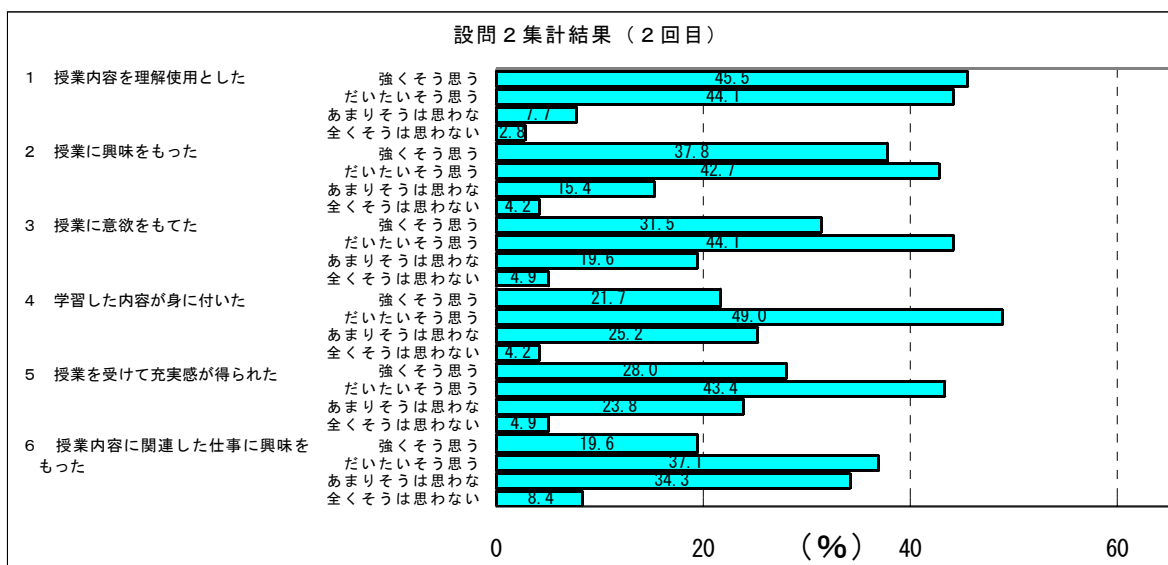


図9 設問2集計結果（第2回目）

(3) アンケートの自由意見について

主体性という数値化しにくい意識の変化を読み取る観点として、自由意見の書き込みに着目した。書き込みの内容も重要だが、自由意見を書き込んだ生徒の数が生徒の興味・関心の変化をあらわす根拠になると考えたためである。表6に自由意見を書き込んだ生徒の数を示す。

表6 アンケートの自由意見回答

		A校	B校	C校	D校	E校	計
アンケート回答者数	1回目	61	27	63	2	3	156
	2回目	54	24	60	2	3	143
自由意見記入者数	1回目	10	11	32	0	0	53
	2回目	30	22	23	2	3	80

表6を見ると、1回目と2回目で、アンケート回答者数が減っているのに、自由意見記入者の数は増えていることが分かる。これは、授業を通して、職業に対する意識や何かを得られたという実感が、生徒の意識に生じたこととらえることもできる。もちろん、書かれた自由意見の中には、職業と結びつかないような内容もあったが、それでも自ら意見を書くという行動の変化が生じたのは事実であり、今後、主体的に授業へ取り組むためのきっかけとなればと思う。自由意見の抜粋を次に示す。

生徒自由意見欄（2回目のアンケートより抜粋）

職業に関する意見

- ・将来はイラストレーターになりたいと思っている。普通科では学べない内容が学べて、仕事をする際役立つと思う。
- ・将来、デザインの授業で身に付けたものを使ってインテリア、雑貨をつくる人になりたいと思っています。
- ・授業内容が難しい。調べ学習は、そこそこ面白かった。将来は、CG とかの職業に就きたい。今後のレポート提出の参考になった。
- ・ゴッホは、自分の仕事についてとてもやりがいをもって仕事をしていたと思う。だから自分は、仕事に対してやりがいや達成感を感じられるような仕事をしたいので、これから自分は将来のことをよく考え、自分の納得できる仕事をしたいと思いました。

- ・将来は現場監督の仕事に就きたいと思った。
- ・建築はとても大変だと思った。このような図面をすぐに描けなくてはいけないと知り、今一度大変さを知った。
- ・将来は何でもできる大工になりたいので製図も頑張ってきたので正確に早く描けるようになりたいです。
- ・将来めざしている職業は社会科教員。地歴、高校教諭になりたい。

専門教科や授業に関する意見

- ・インテリアや建築に関係するもの。授業を通して「授業をうける姿勢」を考えるようになった。残り少ない授業数なので1時間1時間を大切にし、より良いものをつくる！！！！！！
- ・授業で学んだコトを友達に話をしたりした。例：エンタシスとか。モノをつくる人とかになりたいので、その時代に何ができたか知ることができたので、昔の人はすごえて思う。覚えやすい！！
- ・美術館見学のとき、イオニア式の柱を発見し、勉強してたところだ！！と役に立った瞬間を感じた。専門学校体験入学のとき、デザイン史で習ったところが出てきたり・・・と、デザイン史勉強しててよかったと思った。
- ・普通科では勉強できないデザインの内容ができるので楽しいです。
- ・前回のガウディのビデオを見てガウディの建物の曲線がとても綺麗で驚きました。サグラダファミリアを完成させようとする人々もやりがいのある仕事だと思いました。ゴッホは、ひまわりの絵しか知りませんでした。今回、ビデオを見て、ゴッホのことを知ることができて良かったです。ゴッホの絵はとにかく、色に興味をひかれました。美術館に行きたくなりました。私は、絵を描くのが好きなので、大人になっても、趣味で絵を描き続けたいです。けれど、それを職業として考えることは、現在はありません。
- ・もっといろんな図面を見てみたくなった。
- ・光るキノコは種類がたくさんあって、そんなに光るキノコで種類があったのでびっくりした。島をすごく大切にしている人がたくさんいるので、八丈を離れていく人も島にいる人も八丈を大切にしていけないといけないと思った。

(4) B工業高等学校における検証授業に関するアンケート

B工業高等学校では、検証授業における1回目～3回目までの授業に対しての感想を4回目の授業に「13歳のハローワークとビデオ鑑賞の感想」と題して、職業や仕事に関して、もう一度授業を振り返り考え直す機会を設け、アンケート形式で生徒の意見を集約した。以下にその内容を示す。

① 〈設問1〉 授業の流れから職業（仕事）について考えたことを書いて下さい。

(ア) 質問の意図について

検証授業において、職業に対する考え方を導入した結果、生徒はどの程度、職業に関して考えられるようになったのかという確認と「13歳のハローワーク」やビデオ鑑賞をしたことについての効果を検証するために質問をした。

(イ) 回答

- ・私も絵がとても好きなので、ゴッホのような生き方、考え方にあこがれました。私もあそこまで純粋な姿勢で絵に取り組めたら良いなと思いました。ゴッホのように絵を描いて生活（仕事）したいです。
- ・自分のやりたいこともすごく大事だけど、やっぱり才能や技術もとても大事だと思いました。自分のした仕事に自信をもって誇れるように納得できるまで仕事をしたいと思いました。何をすることも努力が大事だと思いました。
- ・「13歳のハローワーク」の本を読んで仕事一つとっても色々な職種や職業があるということを知り、「自分はまだ就職なんて先の話だ」などと授業を受ける前は思っていたり「進学して専門学校で考えればいいや」など思っていたが授業後は、「自分は専門に行って何をするのか」どのような職業に就きたいかなど考えるようになりました。

② 〈設問2〉 デザインの専門教科が職業（仕事）にどのようにつながっているか、簡単に書いて下さい。

(ア) 質問の意図について

日ごろ授業で行っている工業の専門教科が、単に作品をつくることや綺麗に仕上げることだけではなく、提出期限を守ること（計画性）や、グループワークディスカッションによりコミュニケーション能力や協調性を身に付けること、物事の筋道を立てながらものづくりの工程や考え方が、将来の職業に就いたときに役立つことを理解して取り組んでいるか。

(イ) 回答

・デザインでは限られた時間の中でできるだけアイデアを出し、締め切りに間に合わせるということが重要です。これは、自分たちが社会に出たときにも同じことが言えると思います。会社から依頼を受け納期に間に合わせなければなりません。学生のうちからこういった締め切りを守ることが身に付けば、社会に出たとき、とても役立つと思います

・コンセプトやテーマ背景を考え、それに基づいてモノをつくるというステップを踏んで物事を行うところ。どんな職業にもつながっていくと思う。

③ 〈設問3〉 どのような授業であれば職業（仕事）に興味をもてますか。

(ア) 質問の意図について

授業の内容に、職業に関することを取り入れたことに対する感想、仕事に対して興味をもち、さらに考えることができたか。

生徒自身が職業の内容を取り入れた授業を展開する場合どのような授業を提案できるかなど、今後の職業の内容を取り入れた授業への参考にしたい。

(イ) 回答

・ガウディやゴッホの作業風景を見ていて、仕事の熱心さが伝わってきたし、それを見ただけで充分仕事に興味をもてました。

・生徒それぞれやりたい職業は違うので一人一人就きたい職業についての質問ができたり相談できると良いと思います。

・人の生涯をめぐり、作品の紹介を行っていくのが面白かった。一人一人の生き方と、美術の知識が勉強できて、仕事を続けていく中でどんな心構えかなど疑似体験できたようで良かった。

5 まとめ

最近「やりたい仕事が見つからない」という人が増えている。そして「天職探し」のために転職を繰り返す人も増えている。文部科学省では小・中学校からのキャリア教育（望ましい職業観、勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路選択する能力・態度を育てる教育であり、生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育）を推進している。中でも専門高校では、卒業後すぐに就職する生徒も多いため、キャリア教育が掲げる能力「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意

思決定能力」を卒業までの3年間で育てることが求められる。

現在の専門高校の生徒は、学ぶ目的や将来の目標が明確になっていない生徒もおり、専門的な知識や技術を学ぶうえで課題が指摘されることもある。専門高校で行っている職業教育においては、生徒たちが働くことの意義と、職業や仕事に役立つ知識・技能を身に付ける活動と、職業や仕事にどのような知識・技能が役立つのか、あるいは、自分が就きたい職業や仕事にどのような知識・技能が必要であるか等を理解させることである。

また、専門高校では、将来、社会人・職業人として将来の職業を自らの意志と責任で選択し、自立し、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していく資質や能力を身に付けるための指導が求められている。そこで、本グループの研究では、「専門高校では、職業をテーマとした指導を展開する中で、自らの学ぶ目的を認識させ、働くことについて自ら考える力をもたせることにより、自己の将来や職業について考える姿勢が培われ、生徒が主体的に授業に取り組もうとする意識が高まるであろう。」という仮説を立て、アンケートの分析から生徒の意識の変容をとらえ、仮説を検証する方法で研究を進めてきた。分析ではアンケートの集計結果の比較に加え、自由記述の意見欄にも注目し、記述の内容や回答者数の変化などについても分析を行った。数値に表れない部分の評価が課題として考えられるが、以下にその概要を示す。

専門教育を主とする学科においては、実験・実習が果たす役割は大きく、重要な教科・科目となっている。ここでは、作業を伴う内容も多く、実習服の着用や実習に必要な機材を準備し、実習場所へ移動することなどが生徒に求められている。そのような状況の中、図6・7で示した「授業に必要なものを準備した」「授業の始まりの時間を守った」「服装の規定を守った」の3点については、専門教科における指導の状況と生徒の専門科目に対する意識を判断するうえで重要な意味があると考えて設けた。結果は、1回目も2回目も「はい」と回答した生徒が9割を超え高い水準で平衡しており、顕著な変化を確認することはできなかった。このことから、生徒の専門教科へ取り組む姿勢を重要視し、きちんとした生徒指導が行われている実態と、生徒が授業に必要なものを準備して臨んでいる実態等を読み取ることができる。

図8・9で示した「授業内容を理解しようとした」「授業に興味をもった」「授業に意欲がもてた」「学習した内容が身に付いた」「授業を受けて充実感が得られた」「授業内容に関連した仕事に興味をもった」という質問項目に対し、「強くそう思う」「だいたいそう思う」の割合の合計で変化を見ると、「授業に意欲がもてた」「授業を受けて充実感が得られた」の項目では、8%前後の上昇が確認できる。さらに、「授業内容を理解しようとした」「授業に興味をもった」「授業に意欲がもてた」「授業を受けて充実感が得られた」の項目について「強くそう思う」の回答に着目すると平均で5.7%上昇しており、感じ方がより強まっている様子を確認することができる。これらのことから、職業や各自の将来について考えることなどが、学ぶことの意義や目的につながり、学習意欲を高めたと考えることができる。また、自由意見欄の回答数や自由意見記述において、初めのアンケートと検証授業3回目の終わりに取ったアンケートについて個人での比較をすると、次のような意見を得ることができた。

・生徒1の検証授業前アンケート

「色々な椅子に詳しくなった気がします。やっていて楽しい授業でした。」

・生徒1の検証授業後のアンケート

「ガウディのビデオを見たときに、一生を懸けてつくっていると聞いた時は、単純に「すごいなー」と軽く思ったけれど、どんどんビデオを見ていって、本当に24時間365日自分の人生全てを懸けるのだと実感しました。私には、できないと思うのと同時に、そこまで熱中できることを見付けられることは本当にすごいことで、うらやましいことと思いました。ゴッホも黄色がうっとりうしいくらい大好きでそれを仲間にも知って欲しくて、単純で純粋で、だからこそあの良い作品が描けたのだと思います。夜のカフェテラスは、青と黄のバランスが本当に綺麗だと思いました。仕事は、やっぱり自分に合っていて、自分が楽しいって思えることをやるのが一番と思いました。」

生徒1は、ただ単に専門教科の授業内容に対して、「楽しい」という感想から、職業に対して興味や関心をもち、さらに仕事をするときの理想的な発想も考えられるようになった。

・生徒2の検証授業前アンケート

「体育で遅れてしまうことが多いので、始業時間に間に合うようにしていきたいです。」

・生徒2の検証授業後のアンケート

「ゴッホの生涯と黄色や絵に対する思いが分かりやすく見られて良かった。好きなものにこだわり続けることは、大切だと思った。」

以上より、職業に対する考え方を取り入れた授業を展開し、生徒に考えさせることが生徒自身の将来や職業について意識させることにつながり、学習に対する前向きな姿勢を育成することが確認できた。

6 今後の課題

これまでの取り組みの中で、生徒に学ぶことの意義や目的を考えさせる指導を通して、学習に対する主体性を高めることが確認できた。キャリア教育の必要性が叫ばれる中、専門高校ではこれまで以上に職業観や勤労観の育成を計画的に進めることが求められている。そのような観点から課題を次のように整理した。

- (1) 多様な生徒が専門高校へ入学してきている現状を踏まえ、キャリア教育という生徒一人一人の生き方にかかわる指導を計画し、個に応じた指導の一層の充実を図っていくこと。
- (2) 生徒の学習に対する主体性を高めるための研究はその可能性を確認できたので、今後も実践的な取り組みを進めて行く中で、教育的な効果を検証し、指導内容や指導法についての改善を進めていくこと。

私たちは、専門教育に携わるものとして、職業感や勤労観をはぐくむとともに生徒の主体性を高める指導を、学校の教育活動を通して実践していくことが大切だと考える。(1)(2)の課題とともに、「生きる力」の育成の観点を踏まえ、基礎・基本を確実に身に付けさせ、豊かな人間性や社会性、学ぶことや働くことへの関心や意欲、進んで課題を見付けそれを追求していく力とともに、職業人・社会人としての社会的役割と責任、特に、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築く力やコミュニケーション能力など、幅広い能力の育成を図っていくことが今後の課題と考える。

Ⅲ 実践事例2 ー主体性を高める資格取得の指導ー

1 研究仮説

資格取得の指導において、学習内容と職業との関連性や将来の職業選択に及ぼす影響等について、考えさせる指導を工夫し展開することで「働くこと」への関心や学習意欲が高まり、生徒の主体性を増すことができるであろう。

2 仮説設定の理由

専門高校において資格取得のための指導は、多くの学校で重要な指導内容となっており、様々な形で取り入れられている。指導のねらいとしては、より実践的な知識や技術を身に付けることや、学習に対する目標や動機を与えることなどが考えられる。しかし、生徒の理解を軽視した覚えさせるだけの指導も多く、目的をもたずに学習している生徒も少なからずいるのではないかと思われる。このような状況を踏まえ、私たちのグループは、資格という将来の職業に結び付けやすい授業を通して、専門高校で学ぶ意義や目的などを考えるきっかけとし、学習活動の目的や将来の目標などを見いだすことができれば、学習に対する主体性を高められると考えた。その方法として、実際に資格取得を目的の一つとする授業において、取得した卒業生の意見や感想、実際の就職活動との関連性などを題材とした授業を計画し、現在の学習と自分の生き方とのかかわりを考えさせるよう工夫する。このような取り組みを通して、生徒の学習に対する目的意識が高まり、主体的に取り組もうとする姿勢が培われると考え仮説を設定した。

本研究では、次のような観点を取り入れた指導を計画した。

- | | |
|--------------|----------------------------|
| ① 資格に関する基本情報 | ・受検者数、合格率、出題内容、受検料など |
| ② 取得の目的やメリット | ・進路（進学・就職）での資格の有用性 |
| ③ 今後の指導体制 | |
| ④ その他 | ・合格者のアドバイスや生徒のやる気を喚起する関連事項 |

資格取得を目的とする授業の指導においては、上記の①～③の項目は、事前に正確に伝達しておくことは当然のことであり、重要な事項である。しかし、状況に応じてそれらの情報をより豊かに、より具体的に、関連した情報を提供し、生徒自身の課題としてとらえ考えさせる指導を工夫することにより、生徒の資格取得に対する学習の主体性が高まると考えた。

3 研究の方法

(1) 資格取得に関する現状把握及び教材研究

① 資格取得に関する社会的な状況の調査

専門高校における資格取得指導の必要性などについて調査を行い、実践授業における

指導資料を得る。

② 資格取得に関する現状調査

各専門高校にアンケートを実施することにより、資格取得の現状を把握する。それぞれの資格の目的や実施状況を分析し、各学校における資格取得指導の位置付けを確認する。また、調査結果をもとに指導資料の作成を行う。

③ 実践授業における教材研究

資格取得に関する調査及び検証授業実践校の状況を踏まえ、指導のねらいや内容等について検討を行い、指導計画を作成し教材開発を行う。

(2) 実践授業

① 事前調査

資格取得のための学習を生徒がどのようにとらえているのかをアンケートにより把握し、学習に対する意識の変容を分析するための基礎資料とする。

② 実践授業

次のねらいに基づき、実践授業を行う。

- ・ 第1回：検定の種類と内容、受検料、学習計画表の使い方について
- ・ 第2回：資格取得に関する卒業生からのメッセージビデオを通して考える。
- ・ 第3回：高卒求人状況と資格取得について考える。
- ・ 第4回：取得した資格を活用し進学した卒業生からのメッセージビデオを通して考える。
- ・ 第5回：資格取得が進学のきっかけとなった卒業生のメッセージビデオを通して考える。
- ・ 第6回：取得した資格と再就職の関係を通して考える。
- ・ 第7回：資格取得と給与の関係を見る。
- ・ 第8回：取得した資格を活用して活躍している卒業生のメッセージビデオを通して考える。

③ 事後調査

実践授業後に授業に対する感想や意見などを含め、資格取得に関する学習について生徒の自己評価的なアンケートを実施、意識の変容を分析する。

4 実践研究

(1) 資格取得に関する社会的な状況の調査の結果

図1は、「平成13年都立高校に関する都民意識調査」における専門高校の教育で社会から期待されている事項について示したものである。この調査によると、都民は専門高校に対し「実社会ですぐに役立つ技術等を身に付けること」や「専門的な知識や技術をもつスペシャリストを育てること」に高い期待を寄せている。このような実社会に役立つ専門的な知識・技術等を生徒が身に付けたことを評価するものの一つとして資格が挙げられる。専門高校に学ぶ生徒に対し、生徒が身に付けた知識・技術・技能等を資格取得というかたちで評価することにより、生徒は資格をもつことによって達成感が得られ、目的意識をもって意欲的に学習に取り組むようになる。さらに、資格のもつ社会的評価は、生徒に自信

を付けさせ、別の資格や上級資格を取得していこうとする向上心につながる。

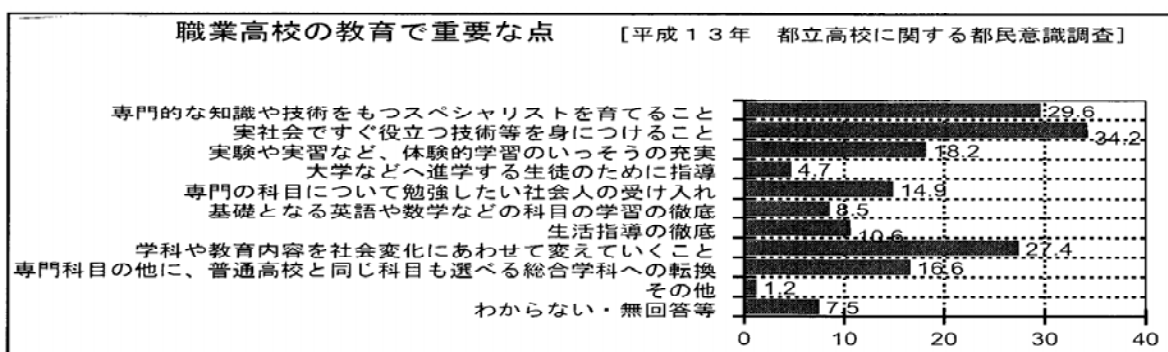


図1 専門高校の教育で重要な点

図2は、「平成13年高校生就職問題に関する検討会議報告書」で「就業者が高校時代にやっておけばよかったと思うこと（全国調査）」の結果である。この調査では、高校時代に「職業に関する教科科目の勉強、職業資格を取ること」がトップになっており、専門高校における資格取得の重要性が分かる。

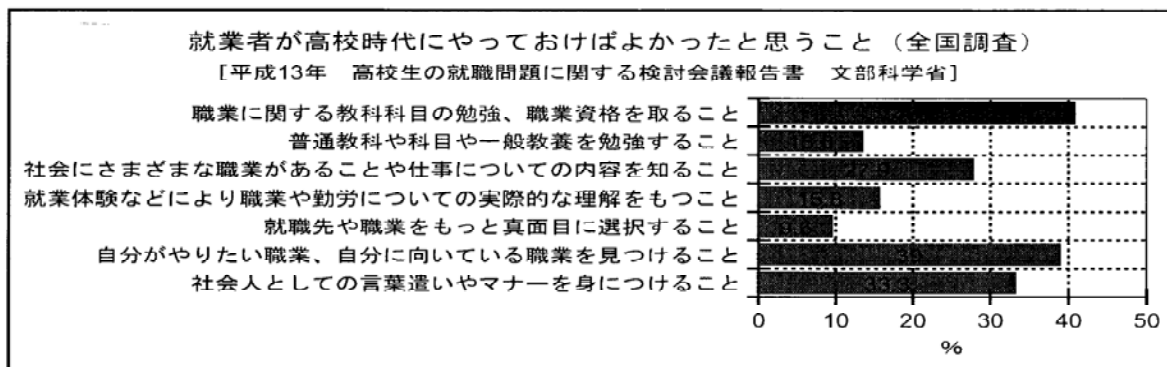


図2 就業者が高校時代にやっておけばよかったと思うこと

資格取得以外のことに関しても、職業に対しての情報が不足し、社会人への移行段階で多くの若者が問題を抱えたまま就業者になっていることが分かる。高校段階において、社会に出てから必要とされる知識や技術、職業感や勤労観を生徒にしっかりと身に付けさせることが求められている。生徒に自己の個性や適性を理解させ、自らの進路選択能力によって進路を主体的に決定し、将来の進路先での自己実現が図れるように指導することが重要である。

(2) 資格取得に関する現状調査

① アンケートの概要

資格取得の現状について右記の項目でアンケート調査を行った。

- ・対象：平成17年度農工商部会所属の研究員の在籍校
- ・回収：農業科3校、工業科4校、商業科4校

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| ①資格の名称 | ②受検（可能）学年 |
| ③科目名 | ④受検の形態（全員受検するか希望者のみか） |
| ⑤受検人数（平成17年度、予定も含む） | |
| ⑥検定の目的（選択枝 当てはまる順に選択） | |
| a. 実際に社会に出てから必要（有用）とされるから。 | |
| b. 今後の進路選択（進学も含む）に有利に働くから。 | |
| c. 担当科目の今後の授業の進行上、必要だから。 | |
| d. 今後の学習の動機付けとなるから。 | |
| e. 生徒の希望が多いから。 | |
| f. その他 | |

② アンケート集計結果

ア 検定の種類と受検人数

研究員が所属する高校において、実際に行われている検定試験の受検に関する調査を行ったところ、農業系14件、工業系23件、商業系9件、延べ受検者数は3,900人あまりとなった。

その中でも情報処理関連資格は、商業高校だけではなく、農業高校、工業高校でも多く行われており、特にワープロ関係の資格は、どの学校でも取得できることが現状である。

また、農業高校では、フラワーアレンジや造園土木系の資格が、工業高校では、製図や建設機械系、溶接関連の資格が取得可能なことが目立つ。商業高校は依然として簿記が主体であるが、デザイン系の資格も取得可能な学校もある。

それぞれの学校が、時代を反映して幅広い分野の検定を取り入れ、授業や放課後等の講習を行っており、対応する科目も多岐にわたるのが現状である。

イ 検定の目的

検定を行う目的について、図3のような結果となった。結果として検定の多くは、具体的に社会に出てから有用であるという認識が圧倒的であった。行われる検定の約7割が高校卒業後に就職、進学などで有用な資格と考えられており、第2位の結果も加えるとさらに説得力を増す。しかし、学習の動機付けと考えられている資格も1～2学年の受検を中心に存在しており、受検学年や受検する内容（級数）により、目的の多様性がうかがわれる。

資格取得の位置付けやねらいとして、「実社会へ出てから必要とされる」「今後の進路選択に有利に働く」からといった意見が多く、生徒の将来的な必要性を考慮し指導を行っている実態がうかがえる。

表1 検定試験の種類と受検人数

検定名称	農	工	商	受検人数
1 簿記検定			13	608
2 計算技術検定		4		593
3 情報処理技能検定		7	2	575
4 ワープロ検定	3	1	3	542
5 電卓検定			1	278
6 珠算実務検定			1	200
7 販売士検定	1		2	155
8 基礎製図検定		3		136
9 ガス溶接技能講習		3		128
10 パソコン検定	1	1		63
11 造園技能士	2			62
12 第二種電気工事士		3		60
13 レタリング検定	1		1	48
14 色彩検定		1	1	43
15 トレース検定	2			40
16 クレーン玉掛け技能講習	1	1		39
17 測量士補		1		30
18 土木施工技術者試験		1		30
19 機械製図検定		2		28
20 アーク溶接技能講習		1		26
21 造園施工技術者試験	2			25
22 小型建設車両技能講習	1	1		24
23 運転士（移動式クレーン）		1		20
24 高所作業車技能講習	1			20
25 とび技術検定		1		20
26 園芸装飾技能士	1			17
27 乙4種危険物取扱者		2		15
28 商業経済検定			1	15
29 大工技術検定		1		15
30 NFD（フラワーアレンジ）	1			10
31 建設施工技術者		1		10
32 フラワー装飾	1			10
33 CG検定		1		5
34 初級バイオ検定試験	1			5
35 福祉住環境コーディネーター		1		5
36 初級アドミニストラータ検定試験		1		1
37 デジタル技術検定		1		1

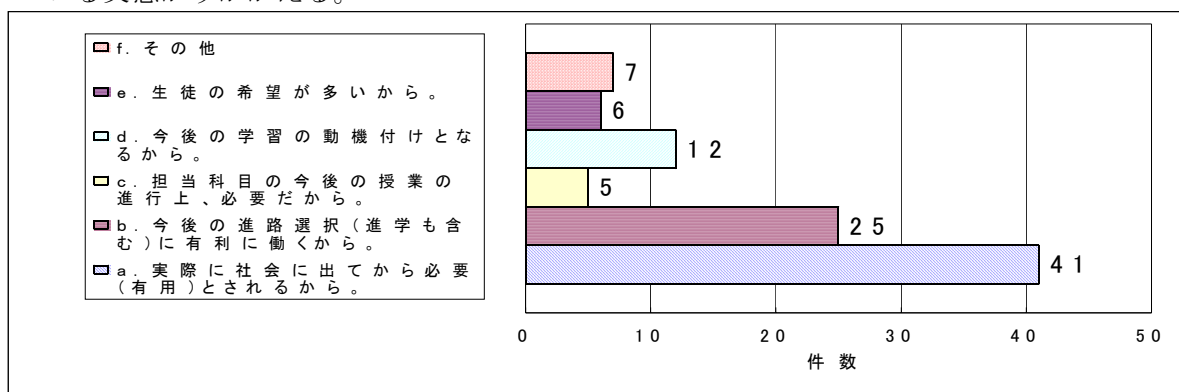


図3 検定の目的

5 検証授業

(1) A 商業高校における検証授業

資格取得の指導において、就職活動とのかかわりや卒業生などの意見や経験を教材の中に取り入れることにより、各自の将来や職業について具体的に考える機会を充実させ、目的意識の涵養を図り、主体性を高めることをねらいとして検証授業の指導計画を立案した。

具体的な指導としては、9月26日に行われる全国商業高等学校協会主催情報処理検定3級の取得をめざした8回の授業の中で、多くの職業や進路の資格に関する情報を伝え、職業について考える授業を実施した。学習指導案に関しては、すべての回の導入（資格に関する情報を伝える部分のみ）部分について詳しく記述することにした。

- ① 検証授業実施校 A 商業高等学校 1年
- ② 実施科目 情報処理（生徒36名）
- ③ 授業単元 情報処理とコンピュータ・表計算ソフトウェアの活用
- ④ 授業の構想 本単元は、情報処理とコンピュータ・表計算ソフトウェアの活用の検定試験（全国商業高等学校協会主催 情報処理検定3級）の合格をめざした授業である。各単元の理解の徹底を図り、表計算ソフトウェアの実技ではなく、文章問題の内容も理解させる。授業外学習、家庭学習を容易にするための意識付けなども積極的に行い、生徒一人一人の学習の進捗や理解度・個性を考慮し、資格に関する職業や進路などの様々な情報を伝え、生徒の主体性が増す指導を行う。

⑤ 指導計画の概要 単元総時間 8時間（1時間授業 50分）

	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
9月5日(月)第1回情報処理検証授業				
導入 10分	本時から8時間にわたる情報処理検定についての学習目標と内容の説明	情報処理検定自己採点シートの記入	本時から8時間で行う情報処理検定取得の大切さや目的を理解させる。	本時の学習内容を理解しシートに記録しようとしている。 (関心・意欲・態度)
9月6日(火)第2回情報処理検証授業				
導入 10分	資格取得についてのアンケート調査、資格を取得した先輩のビデオを見る。	アンケートの記入。	アンケートは、評価には一切関係しないことを説明する	資格取得に関するアンケートを記入している。(関心・意欲・態度)
9月7日(水)第3回情報処理検証授業				
導入 10分	応募資格に検定試験取得の条件がついている高卒求人票を提示し、資格取得の大切さを指導する。	求人票の見方についてのメモを記入する。	求人票の見方は、細かい点までには言及せず、現在必要などところのみ説明する。	求人票の見方メモを記録しようとしている。(関心・意欲・態度)
9月12日(月)第4回情報処理検証授業				
導入 10分	資格取得に関するビデオ(進学編)を上映し、解説をし、資格取得の大切さを指導する。	ビデオを見る。	前回のビデオ(就職編)との体験者の意見の一致を理解させる。	ビデオの内容を理解しようとして見ている。(知識・理解)(思考・判断)
9月13日(火)第5回情報処理検証授業				
導入 10分	資格取得に関するビデオ(進学編)を上映し、解説をし、資格取得の大切さを指導する。	ビデオを見る。	前回のビデオ(就職編)との体験者の意見の一致を理解させる。	ビデオの内容を理解しようとして見ている。(知識・理解)(思考・判断)

9月14日(水)第6回情報処理検証授業				
導入 10分	資格取得に関するホームページを閲覧させる。資格取得の大切さを指導する。	ホームページ閲覧	ホームページを閲覧する前に、ネチケットのことについて言及する。	進んで情報を得ようとしている。(関心・意欲・態度)
9月20日(火)第7回情報処理検証授業				
導入 10分	資格取得により、資格給が設定され資格の有無が給与にも影響することを理解させる。	資格給についてのプリント記入。	すべての職種について資格給があるわけではないということを理解させる。	自分の意見をまとめ記入しようとしている。(関心・意欲・態度)
9月21日(水)第8回情報処理検証授業				
導入 10分	資格取得に関するビデオ(フラワーアレンジメント編)を上映し、解説をし、資格取得の大切さを指導する。	ビデオを見る。	資格取得についての大切さを理解させる。	自分の意見をまとめ記入しようとしている。(関心・意欲・態度)

図4 A商業高校における検証事業の学習指導案(導入部)

⑥ 検証授業のねらい

ア 9月5日(月)第1回目

情報処理検定についてのガイダンス(検定試験の説明・これからの授業進行内容の説明など) いままで学習してきた情報処理の知識・理解の程度を確認する。

イ 9月6日(火)第2回目

資格取得に関するアンケートを行う。その後、資格を取得した先輩の「資格取得と現在の職業や、仕事とのかかわりについて」のビデオを上映する。

ウ 9月7日(水)第3回目

求人票の中から、資格取得が採用の条件となっているものを整理し、職業の選択と現在の学習とのかかわりについて考える機会を設ける。

エ 9月12日(月)第4目

資格取得に関するビデオの2回目。前回のビデオは就職編であるので、今回は進学編において資格取得がなされることにより進学への道が開かれる現状を見る。

オ 9月13日(火)第5回目

資格取得に関するビデオの3回目。今回のビデオは、自分の目標としている職業につくために必要な資格取得のビデオであるので、資格取得が就職に結びつく現状を見る。

カ 9月14日(水)第6回目

資格取得に関するホームページを題材に、社会人の就職活動の状況を調査し、資格というものが社会的にどのように評価されているのか、現在、学習している内容が実社会とのかかわっている様子などについて、生徒が各自の視点で意見を整理し考えをまとめる。

キ 9月20日(火)第7回目

資格取得と手当の支給を題材に、資格をもって仕事を行うことの意味を、責任と期待の側面から展開し、現在の学習の意味について考える。

ク 9月21日(水)第8回目(最終回)

現在資格を取得しそれを活かして活躍している先輩のビデオ(フラワーアレンジメント編)鑑賞を通して、各自の課題を確認する。

(2) 各回の導入時の生徒の反応

受検者数、昨年度の合格率、出題内容、受検料などを説明すると、生徒から、様々な質問がでた。たとえば、「検定料はいつ払うか」「合格ができないとどうなるか」などである。第2回になり、資格を取得し活躍している先輩のビデオは、2年後の自分を想像しながら見ているようであった。3回目の求人票を見る導入では、全員が関心をもって見る事ができた。1年生にとって初めて見る求人票であり、「給料は」「休みは」「賞与は」と興味を示した。



図5 A商業高校における検証授業の様子

説明には、賞与の計算なども折り込み、最後に応募の条件の資格欄を全員に確認させた。生徒からは、この企業には資格がないと就職できないという意見がだされた。第4回の進学編のビデオ上映で大学進学にも、資格は利用できるということを強調して説明を行った。生徒の反応は、進学を考えている生徒にも深く届いたようで、推薦入学の条件を授業後に確認しに来た生徒もいた。第5回は工業高校の卒業生のビデオが上映され、商業以外でも資格取得に努力している生徒がたくさんいることを説明し、資格取得が自分の就職したい道を開くことになるということを強調して説明した。第6回では、社会人の就職活動に関するホームページを閲覧させた。子育てを一段落させた女性が再就職したいとき、資格を何も取得していないため苦労したという部分から、資格というものが社会の中でどのような意味をもつのかについて考えさせた。第7回は資格取得が給料とも関係していることを伝え、資格が能力を評価する基準となっていることに高い関心を示すとともに、給料や休暇などについても興味をもった。第8回はフラワーアレンジメントの仕事をする先輩の話で、資格の大切さを再認識し、あと4日に迫った試験を頑張ろうという気持ちが生徒から感じられた。

(3) 検証授業を終えて

以上、8回にわたり資格取得の指導を通して、資格を必要とする職業や進路などの様々な状況について考えさせ、「働くこと」への関心や将来に対する目的意識を高めた。今回の検証授業を実施するうえでの課題は、資格取得をねらいとする授業において、受検指導の時間を2割短縮する中で、合格率を維持・向上させることであった。結果的には補習等により、補うこととなったが、生徒の学習に対する意欲や積極性を感じる場面が幾度もあった。

(4) 実践授業のアンケート集計結果

資格取得に関する検証授業のアンケート調査を検証授業後に行った。このアンケートでは各回の検証授業の感想や意見を中心として生徒の自己評価の形で調査を実施した。

① 学習に対する主体性について

この調査は、検証授業後に、8回の授業を受けることによって、学習に対する主体性がどのように変化したかを、自己評価の形で確認するためのものである。

結果は、「主体的に学習を進めるようになったか」という質問に対し、「とてもそう思う」と「そう思う」で71%に達した。生徒の自己評価からそのまま主体性が伸長したと結論付けることはできないが、資格取得やそのための学習の必要性を理解し始めている兆候と考えることができる。(図6)

② 資格に関する情報について

この調査は、資格取得の指導において、資格の有用性や目的意識をもって学習することの重要性など、情報を得ることの大切さについて生徒の考えを確認したものである。結果は4分の3の生徒が情報を得ることは大切だと考えている(図7)。また、6割の生徒が卒業生の経験などを聞くことが参考になると答えている(図8)。このことは、資格というものの大切さを感じ、自分の進路を考え、資格を取得していくことが自分の将来のためになることに気付き、主体的に資格を取得していこうとする意識の表れであるととらえることができる。進路指導を通じて感じたことだが、生徒は企業などがどのような資格を必要としているのか、不安に思っていることがある。卒業生のビデオなど資格に関する情報は、このような不安を取り除くばかりではなく、資格に対する生徒の目的意識を向上させる働きもある。

③ 求人票と資格について

この調査は、高等学校で実際に利用している求人票を生徒に見せて、応募をするのにどのような資格が必要であるか、企業側から見た資格の重要性を理解させ、資格を取得する必要性について確認するためのものである(図9)。資格というものは、個人の資質や適性などを保証するものではないが、企業側にとっては、少なくともその資格が認定する能力をもっていることを証明するものであり、採用時には候補者の能力を見るために利用されることもある。また、化学工場で危険物を管理しなければならない危

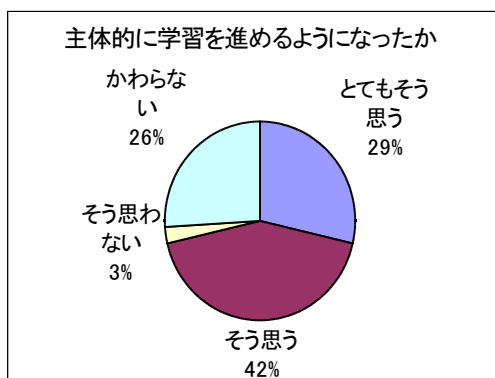


図6 学習に対する主体性に関する調査

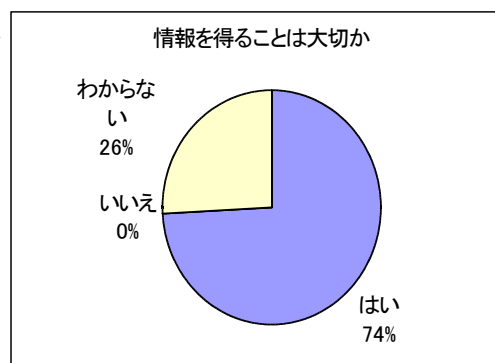


図7 資格情報を得ることに関する調査

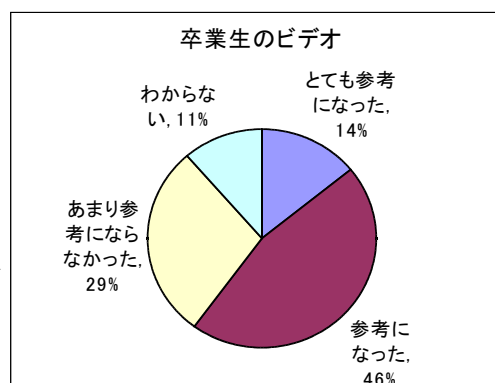


図8 卒業生のビデオに関する調査

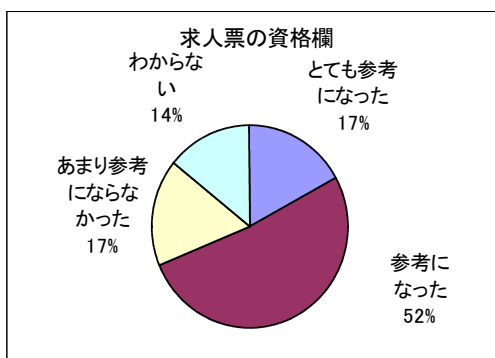


図9 求人票の資格欄に関する調査

険物取扱者のように、その資格が無いと業務ができない資格もある。企業の中には、特定の資格に対して資格給を支給する制度を設けているところもある。これらの指導を行った後でアンケート調査をした結果を見てみると、「とても参考になった。」「参考になった。」という肯定的な意見が多い（図9、10）。このことは、生徒が就職するときの資格の必要性や仕事と資格の関係を気付かせ、働くことへの関心と資格を取得することの重要性を導き出したことがうかがえる。

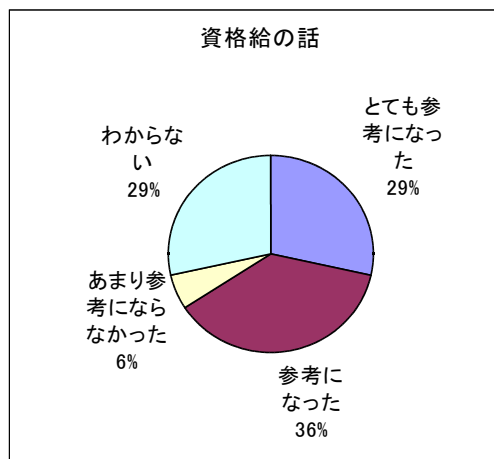


図10 資格給に関する調査

6 まとめ

一般に資格試験は全国的に一定の基準によって判定されるため、生徒が資格取得に挑戦することによって、取得に必要な知識をどの程度理解できたかを生徒自身が客観的に判断できる。可否という形での評価に公平感があり、学習成果が速やかに判明するという利点もある。また、就職試験に際し、資格取得が採用時に重視される能力の一つにあげられている（厚生労働省発表「若年者の就職能力に関する実態調査」平成16年1月）。しかし、目的意識が希薄で、十分な準備もせずに受検する生徒もいる。そこで、資格取得の学習を通して、専門高校で学ぶことの意義や職業を学ぶことの重要性などを考える機会を積極的に与えることは、生徒の目的意識を育て、生徒の学習意欲を向上させることになると考えられる。

7 今後の課題

資格取得のための指導は当然合格させることに第一のねらいがある。しかし、合格するための暗記的な指導や資格取得を通じて行う職業感や勤労観がおろそかにされている現状も否めない。限られた時間の中でどのような指導を行うのかを真剣に考え、資格取得の合格率を上げるとともに、専門高校で学ぶ目的を考えさせ、勤労観や職業観を育成していくことが今後ますます重要となる。このことは、生徒一人一人の生き方を考えることであり、個に応じた指導の一層の充実を進めていかなければならないことを意味している。そのような観点に立ち、引き続き生徒の主体性を高めるための指導について研究を進めていく。

IV 実践事例3 -教材開発「コンビニエンスストアを題材にした授業の実践」-

1 研究仮説

教材作成において、生徒からの情報や発想を題材とし教材化することで、授業内容に関心をもつとともに、指導内容に対する評価的視点が培われ、学習に対する主体性が高められるだろう。

2 副題及び研究仮説設定の理由

- (1) 専門教育において、生徒が学習に対する興味・関心を高め、積極的に授業に参加するための一つの条件として、生徒が授業の題材に対する知識や情報がある程度もっていることと、授業で学んだことや調べた結果などについて何らかの判断ができることが重要だと考えた。
- (2) コンビニエンスストア（以下「コンビニ」と言う。）は生徒にとって身近なものであるとともに多くの生徒にとって社会との共通の接点であると判断した。そのようなコンビニを題材とすることにより生徒が考えたり判断したりすることを促す授業展開が可能だと考えた。
- (3) コンビニは多くの産業の集合体であり、農・工・商の各学科で共通に議論が可能な題材である。そのため、専門教育という枠の中で研究を行う本部会のねらいと合致するとともにコンビニを多面的にとらえ、自らの学習と社会との関わりを考えるための題材としてふさわしいと判断した。

3 研究の概要と結果

(1) 授業前アンケート

図1に示す授業前アンケートから、生徒のコンビニの利用状況やコンビニに対する印象等について調査した（回答数143人）。この結果を以下に示す。

まず、設問1により生徒の利用状況を調査した。この結果は図2に示すように毎日行く生徒が約4割、さらに週に1回以上行く生徒となると8割以上にもおよぶ。多くの生徒が日常生活の中でコンビニを利用している状況を確認することができた。

次に、利用の目的を購買している商品から調査を行った。結果を図3に示す。回答は複数回

【授業に関するアンケート】

コンビニエンスストア（以下コンビニ）についてのアンケートに答えて下さい。

1. どのくらいの回数コンビニに買い物に行きますか？
あてはまるところの下に○をつけて下さい。

毎日（週に4日以上）	1週間に1～3回	1ヶ月に2～3回	めったに行かない
------------	----------	----------	----------

2. コンビニでよく買うものは？（2つまで○をつけて下さい）
あてはまるところの下に○をつけて下さい。

雑誌・新聞	飲料	食べ物（お菓子類）	食べ物（弁当・おにぎり・惣菜等）	文具
コピー	生活雑貨	その他		

3. コンビニで必ず見るところは？

_____のコーナー

4. コンビニのおすすめ商品があれば教えてください。

_____商品名→ _____

↑コンビニ名
おすすめ理由

5. あったら嬉しいコンビニサービスやコンビニへの要望。

6. あなたにとってコンビニとは？

私にとってコンビニは

7. あなたの好きな色を下の5つから選んで下さい。（好きな色で○で囲む）

赤 青 黄 緑 紫

図1 授業前アンケート

答を可能としているので、グラフは度数で表しているが、飲料と菓子・食料品を合わせると購入商品の85%となり食料品の購入利用が多数となっている。特に90%以上の生徒が飲料をよく購入すると回答している。

設問3ではコンビニのどこに興味・関心をもっているかをコンビニで必ず見るところから確認した。結果を図4に示す。

新聞・雑誌のコーナーを見ている生徒は多いがそれほど購入していないことがうかがえる。これらの結果から、多くの生徒が飲料や食料品を購入するためにコンビニを利用していることが分かる。

また、設問4、5ではコンビニにはそれぞれどのようなおすすめ商品があるのか、またどのような要望をもっているのかを考えさせるとともに、教材作成の基礎資料を得る目的で調査を行った。結果を表1に示す。ここから細かい分析を行うことはできないが、生徒が、普段購入している食料品に対する商品知識やこだわりをもっていることを読み取ることができる。さらに、コンビニに対する要望やコンビニをどのようにとらえているかを確認する設問5及び6からは、コンビニは日常的に活用する便利な存在で、なくてはならないものととらえており、価格に対する要望はあるものの、そのほかは特にないことから、概ね満足している様子を読み取ることができる。

(2) 検証授業（実践と結果）

研究仮説とねらいに基づき、事前調査を踏まえた授業計画や指導案及び教材作成を行い、研究員それぞれが実践授業の中で仮説を検証することとした。図5は検証授業における指導案の例である。

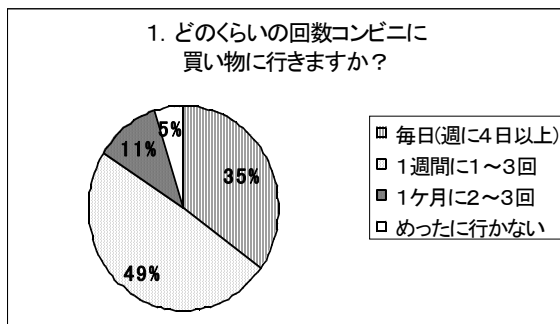


図2 コンビニの利用回数

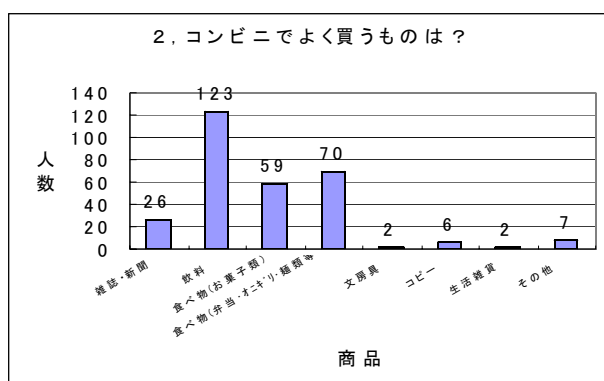


図3 コンビニでの購入商品調査

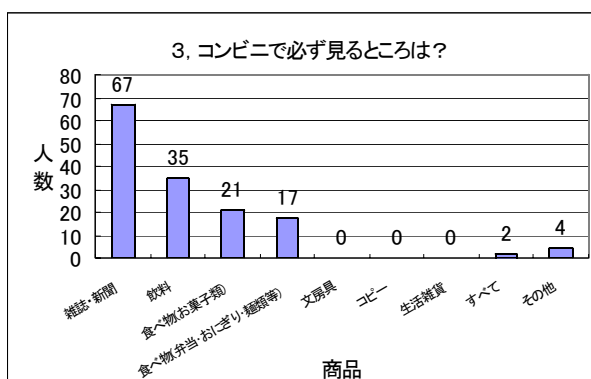


図4 興味や関心のある部分

表1 コンビニのお勧め調査結果

4. コンビニのおすすめの商品があれこれ教えて下さい			
店名	商品名	理由	数
A	パン	おやつに美味しい	3
	おでん		19
B	おにぎり		8
C	ソフトクリーム	牛乳の味がそのまま濃	4
D	五月おにぎり		5
E	パン		1
F	QQお菓子シリーズ	105円なのに量が多い	1
G	パンが弁当	このパンが大好きで美味しい	1
H	ジャスミンティー		1

5. あつたら嬉しいコンビニサービスやコンビニへの要望	
安くして欲しい	15
新サービス	8
特になし	30

6. あなたにとってコンビニとは？	
便利なお店	32
無くては困る	14
身近なもの	31

教 育 研 究 員 検 証 授 業 指 導 案

商業科 科目：商品と流通			
場 所	東京都立A高等学校 作法室	日 時	平成 17年 9 月 22 日 1 校時
対 象	2 年 D 組 商業選択 (合計 9 人)		
指 導 教 員	○ ○ ○ ○	使用教科書	商品と流通 (発行所 ○○出版)
単位数	3 単位		
授業単元	商品研究		
学習内容	商品のデザインやパッケージングが、消費者の購買意欲に与える効果について		
本時の目標	市販されているお茶を題材として生徒の興味・関心高め、デザインやパッケージングが購買意欲に大きな影響を与えていることを理解させる。		

指 導 計 画

検証授業前： 検証授業についての概要説明、および検証授業の学習内容について説明。また、「コンビニ調査シート」の調査を宿題として指示 本検証授業： 下記の指導案に基づく検証授業の実施 検証授業後： 検証授業の結果を分析させ、デザインやパッケージングの効果について再度確認する。

評 価 規 準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
① 商品についての調査・研究・実験を行い、自ら進んでまとめたり確認しようとする意欲や態度をもっているか。 ② 市場商品の多様化・融合化が進展する現状について、自ら進んで把握しようとする意欲や態度をもっているか。 ③ 商品への興味や関心をもち、新たな商品の提案を行うことについて、自ら進んでまとめたり提案しようとする意欲や態度をもっているか。	① 市場商品の動向についてさまざまな角度から考察しようとしているか。 ② 新商品を提言する際に留意する事項について、さまざまな角度から主体的かつ客観的に考察するとともに、消費者満足度をどの程度とらえているか判断できる能力をもっているか。	① 研究商品に関して、さまざまな資料を収集し、その中から適切に選択し、活用しようとする能力を身に付けているか。 ② 研究商品について、その現状を客観的に把握し、その結果を適切に表現したうえで、新商品の提案をしているか。	① 研究商品に関する基礎的・基本的な知識を理解し、説明することができるか。 ② 新商品の提案について、基礎的・基本的な知識を自ら進んで理解し、それについて適切に提言することができるか。

指 導 上 の 工 夫

- ・ 「商品実習シート」を活用し、実習の経過や感想等を記入させ、生徒の意欲や到達度、また実習に対する理解度や考察力を測る。
- ・ お茶を飲むという研究を通して、生徒の興味・関心を引き出す。

学 習 指 導 案

	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導 入 5	・ 前時間の学習内容の確認 ・ 本時の学習内容の確認	生徒が調べてきた、コンビニ調査シート(ペットボトル茶について)の内容を各自1分程度で発表させる。 生徒に、コンビニの商品陳列の様子から、ペットボトル茶の売れ行きベスト3を考えさせる。	インタビュー形式で、生徒の発表では足りない点をこちらで補う どこにどのように陳列されている商品が、売れ行き商品なのか、復習をしながらベスト3を考えさせる。	・ コンビニ調査シートの内容を確認する。 (関心・意欲・態度)
展 開 40 分	・ ペットボトル茶の消費動向について ・ 商品研究	新聞社のデータをもとに、コンビニで売られているペットボトル茶の売上高ランキングを確認させる。どうしてこのようなランキングになるのか、商品のヒットの要因について説明する。 ペットボトル茶売上高ランキング、1位、2位、3位、4位のお茶を、発売元、パッケージング、コンセプト等を紹介しながら、順番に試飲させる。 以上のお茶を、今度は順序を変え商品名を伏せて試飲させ、おいしいと思った順番に並べさせる。全員の順番が決まった後に、各自にその理由について説明させる 試飲した順に実際の商品名を発表する。その上で、「商品実習シート」に、今日の実習で学んだこと、感想などを記入させる。	前項で考えさせたベスト3と実際のベスト3の差について確認させ、生徒から感想や意見を求める。また商品のヒット要因である、品質・デザイン・宣伝広告について理解させる。 紹介する内容は、順位、メーカーが公表している味の特徴、コンセプトなどを説明する。 生徒が自ら考えるよう促す。 導入部での説明、商品研究の結果を参考にして記入させる。なぜ、商品名を伏せると、お茶の銘柄が分かりにくくなるのか考えさせる。 公表されている味についている説明と、実際に飲んだ時の味の感想を検証させる。	・ 広い視点で、商品を考察している。 ・ 他の生徒に分かりやすく説明している。 (思考・判断) (技能・表現)
ま と め 5 分	・ 本時のまとめ	・ 商品やデザインパッケージ、広告等の効果について確認する。 ・ プリントを提出させる	・ 本時のまとめをし、次回の内容を予告する。 ・ 提出されたプリントの扱いについて説明する。	・ 本時の学習内容を確認して。 (知識・理解)

図 5 指導案例

ア A商業高校での実践

授業前アンケートの集計結果では、質問項目2（コンビニでよく買うものは？）において、飲料の割合が最も多い。また、質問項目3（コンビニで必ず見るもの）においても飲料の割合が大きい。このことから、飲料はコンビニの中でも、特に生徒にとって身近な物であると判断できる。コンビニで販売されている飲料を題材として検証授業を行うこととした。検証授業は、「商品と流通」の授業で行った。この科目の学習内容は大きく3点ある。1点目は、消費者が欲しいと思う商品はどのような商品か、消費者はなぜその商品を欲しいと思うのか、顧客心理や消費者の特性について理解する。2点目は、商品が生産されてから消費者の手元に届くまでの流通の経路やそのしくみについて理解する。3点目は、商品や流通に関わるビジネスがどのように発達し、私たちの生活を便利にしてきたのかについて研究する。

今回の研究テーマ「コンビニの教材化について」を研究するにあたって、この科目の学習内容と研究テーマがほぼ一致している点、講義形式でなおかつ専門性の高さから指導が難しい点、科目が新設されてから4年目と新しいことから指導事例や教材が少ない点、この3つの理由により、商業の科目の中で検証授業に適切であると判断した。

従来ならば、教科書や資料集などを参考にさせ生徒に教授するという授業であるが、何の疑いもなくこの事実を受動的に理解するのではなく、実際に身近なコンビニという題材を使うことによって、もっと授業で積極的に考える姿勢が培われるであろうと考えた。

検証授業では「商品研究」という単元を扱っている。この「商品研究」は、商品の特性や流通システムについて具体的に分析し、新たな商品開発や新ビジネスの可能性を模索し、現在の商品と流通に関する問題点を探るという学習を行う。今回の検証授業では「デザインやパッケージが、消費者の購買意欲にどのような効果を与えるか」という学習内容で実施した。この学習は、消費者が商品を購入するにあたり、商品の品質や価格だけで選択するのではなく、商品のデザインやパッケージ、また広告効果や企業イメージなどが、購買行動に大きな影響を与えるということを理解させる点が目標である。コンビニの数ある商品の中で、今回ペットボトル入り緑茶を題材として取り上げた理由は、類似した商品が数多く発売されている点、商品によって味の差が顕著でない点である。このような商品は、品質だけではなく、商品デザイン、パッケージング、キャッチコピー、CM広告など、宣伝効果はその売上にかかわる大きな要因であるという傾向があり、学習内容を理解させるにあたり、一番適切であると判断したからである。コンビニではどのようなペットボトル入り緑茶が売れているのかを調べるところから始める。通常であれば、新聞社や広告代理店などが発表している売上高の統計資料を生徒に教材として提示するが、今回は、コンビニからそのランキングを仮定させる作業を行わせた。具体的には、コンビニの飲料コーナーに「コンビニ調査シート」を持参させ、調査を行わせた。そのシートには、①その中で一番美味しそうに感じたお茶はどれか、②どのような所が美味しそうに思ったのか、③美味しそうと思ったお茶のイメージについて、④美味しそうに思ったお茶は店内の飲料コーナーのどの辺りに陳列されていたか、以上の4つ

の質問項目を挙げておいた。その結果を集計すると、表2となった。上記の結果については、検証授業の冒頭に各生徒より調査結果を発表させ、その場で集計を行った。実際の新聞社の調査による平成17年上半期売上高ランキングと自らの調査結果が合致していたことに生徒は驚きを感じている様子であった。ここで、コンビニでは販売スペースが制限されていることから、売上高ランキング上位の商品のみ取り扱っていることや、特に売上高トップの商品を集中的に目にとまりやすい位置に陳列していること、また、そのお茶のブランド認知度、評判、広告、パッケージデザインなどの味以外の要因が、その商品の評価に大きく影響していることの解説を行い、生徒の調査結果と新聞のランキングの合致が偶然ではなく、ある程度は必然的であったことを説明した。

次に、そのペットボトル入り緑茶の売上高ランキングが、お茶の味や品質によって決定しているものなのか、それとも先に学習したように、ブランド、評判、広告、パッケージデザインなど、味や品質以外の要因で決定しているものなのか、実際に実験することにした。先ほどの生徒によるコンビニ調査結果および平成17年上半期売上高ランキングから、上位4銘柄である「緑茶イ」、「緑茶ロ」、「緑茶ハ」、「緑茶ニ」について、銘柄を伏せて試飲させ、自分が飲んでいるお茶が何かを答えさせることにした。

初めに、上記の4銘柄のお茶について、それぞれの銘柄とキャッチフレーズを紹介しながら、各銘柄について試飲(50ml)させ、生徒に味を覚えさせるという作業を行った。生徒には、このキャッチフレーズの意味は説明せず、大体のイメージとしてとらえるよう指示をした。これは先入観をあまりもたせず、生徒自身で独自のイメージを確立させるためである。

次に、一人につき4つのA・B・C・Dの記号を記入した紙コップを用意し、その中に上記4銘柄のお茶を各コップに50mlを注いだ

表2 事前アンケート集計結果

①その中で一番美味しいそうに感じたお茶はどれか

順位	銘柄	票数
1位	緑茶イ	4
2位	緑茶ロ	3
3位	緑茶ハ	1

②どのような所が美味しそうに思ったか

1位	緑茶イ
いつも目に止まる位置に置いてあり、売れていると思った	
普通のお茶に比べて苦くない	
パッケージから美味しそうだと感じた	
2位	緑茶ロ
濃そうではろ苦い感じがよい	
パッケージから美味しそうに思えた	
一番有名で歴史がある	
3位	緑茶ハ
パッケージデザインがよい	

③美味しそうと思ったお茶のイメージについて

1位	緑茶イ
人気がある	
とにかく有名	
茶葉からこだわっていて、他とは違うお茶	
2位	緑茶ロ
暑い日にぜひ飲みたいお茶	
一番美味しいお茶	
3位	緑茶ハ
パッケージデザインがよい	

④美味しそうに思ったお茶は店内の飲料コーナーのどの辺りに陳列されていたか

1位	緑茶イ
上から3段目に4列陳列(2票)	
上から3段目に3列陳列(1票)	
上から3段目に2列陳列してあった(1票)	
2位	緑茶ロ
上から3段目に2列陳列してあった(2票)	
上3段目に3列陳列してあった(1票)	
3位	緑茶ハ
上から4段目に2列陳列してあった(1票)	



図6 検証授業の様子

ものを生徒に同じく試飲させた。これは授業前に事前に準備したものであり、もちろん生徒は、その中にどの銘柄のお茶が入っているのかは全く分からない。そして、このAからDのお茶が、それぞれ上記4種類のどのお茶に該当するのかを答えさせた。その結果、完全な正解を出すことができた者は1名であり、逆に1つも正解することができなかった者は4名であった。まとめとして、この結果から味だけではそのお茶を判断するのは難しいと結論付け、やはり売上高ランキングは、ブランド、評判、広告、パッケージデザインなど、味や品質以外の要因で決定していると実証できるのではないかと、生徒に問いかけを行った。



図7 検証授業の様子

授業の最後に授業の感想を記入させたところ、「味以外の要素がやはり大きいと感じた」、「おいしさよりも、企業やブランドイメージで選ぶ人が多いと思った」、「味以外の情報で商品を判断していると実感した」というものがほとんどであった。

この検証授業後に実施した授業後アンケートより、授業を受けたすべての生徒が、授業内容が理解できたと回答した。さらに、コンビニを取り上げたことで、授業が楽しく感じられたと回答した生徒も7割を超えた。また、授業を行ってみても生徒からの意見や質問がとても多かったことから、コンビニという教材に興味をもち、この授業内容を理解して積極的に取り組んでいたと言えよう。このような結果が得られた背景として、身近な題材を教材としたことは当然であるが、生徒が教材に対する知識や、学習内容を判断できる十分な情報をもっていることがあげられる。

イ B商業高校での実践

科目：「情報処理」

単元：情報の分析

学年：3 学年合同

人数：2 クラス計30名

コンビニのおにぎりに対する生徒の意識調査を表3のコンビニ調査シートを用いて行い、その結果を表計算ソフトで表としてまとめ、分析方法の学習を行った。この授業では教科書やプリントなどからデータを生徒に与

表3 コンビニ調査シート

コンビニ調査シート () 学年 () クラス () 番 氏名 ()								
あなたが、コンビニのおにぎりを食べるときにどのような傾向があるかを調べたいと思います。								
1	コンビニのおにぎりをいつ食べますか。	1. 朝食	2. 午前の間	3. 昼食	4. 午後の間	5. 夕食	6. 夜食	7. 買わない
2	食べる場所はどこですか。	1. 自宅	2. 友人の家	3. 学校	4. 歩きながら	5. 乗り物	6. その他	
3	どんな種類のおにぎりが好きですか。 (複数回答可3つまで)	1. 梅	2. ツナマヨ	3. 鮭	4. チャーハ	5. 昆布	6. おかか	
4	おにぎりを選ぶ基準は何ですか。	1. 値段	2. 味	3. 気分	4. 量	5. 具の種類	6. その他	
5	おにぎりと一緒に買うものは、	1. お茶	2. お茶以外の飲み物	飲み物の種類		3. お菓子・デザート		
6	買うときに包みのはれ方は気にしますか。	1. ならない 2. 気になる 3. 実際に買って見たときに、はれにくいときがあった					回答が2・3の方はどのようなのか教えてください。()	
7	高級おにぎりを買ったことがありますか。 理由も教えてください。	1. ある	2. ない	()				
8	今後食べてみたいおにぎりがあれば書いてください。 (具のことだけを考えなくてもよい)							

え、そのデータを用いて情報処理について学習することが多く、機械的な操作と方法を学ぶことが中心となり、生徒にとって受け身の授業となりやすかった。

検証授業では、事前に表3に示すコンビニ調査による事前調査を行い、検証授業では表4に示す表計算ソフトに結果を入力し、この集計結果をもとに、これらのデータからどのような情報が得られるのかを検討しまとめることとした。また、

インターネットでコンビニのおにぎりに対する全国規模のアンケート結果なども活用し、インターネットの結果と比較し、自分たちの結果とどのような違いがあるかも検討した。

生徒は、自分たちにとって意味のあるデータを活用することと、データを分析した様々な結果に対し、それぞれの経験やもっている情報から判断が行えることから、積極的に授業に参加する様子を確認することができた。さらに、事後の調査では、次のような意見が出された。

- ・今まで学習した関数の復習もできた。
- ・自分たちの意見がデータとして取り入れられてよかった。
- ・いつもより真剣に取り組むことができた。

表4：授業用入力表

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
2	コンビニおにぎり意識調査												
3	コード	年次	部	時期	場所	基準	即時購入品	お好み	高級おにぎり	判定	好み	好み	好み
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18	コード表												
19	コード	年次	部	合計									
20	2102年次	1		高級おにぎりを買う	1								
21	2202年次	2		買わない	2								
22	2302年次	3											
23	2402年次	1											
24	2502年次	2											
25	2602年次	3											
26	4104年次	1											
27	4204年次	2											
28	4304年次	3											
29	グラフ												

ウ C工業高校での実践

科目：機械工作 単元：機械材料の性質と種類

学年：2学年 人数：26名

この単元では、機械材料の性質と種類について学ぶ。機械材料というと馴染みが浅いので、身のまわりの材料に目を向けさせ、日ごろ学習していることが生活の中に生かされていることで興味を引き出そうと考えた。

導入では事前にコンビニで見てきた商品や物品を一つずつ生徒全員に発表させ、そこに使われている材料を一緒に考えた。

そこで生徒が挙げた中で最も多かったプラスチックやペットボトルを取り上げ、非金属材料の種類や性質、特徴や用途を講義し、教科書の内容と照らし合わせた。さらに、ペットボトルのリサイクル（本校生徒の作業服等）についても触れた。

最後に、身のまわりにあるものと工業との関連や、他産業とのかかわりについても考えさせ、講義内容と共にまとめた。

授業後アンケートの結果、約8割の生徒が「授業を楽しく感じた」、約9割の生徒が「授業内容を理解できた」と答えていることから、授業内容に興味・関心をもち、積極的に参加しようとする姿勢を確認することができた。しかし、「自分なりに考え工夫した」、「新しい発見があった」と答えている生徒は、約半数にとどまった。この点については、今

後の授業研究及び教材開発の課題と受け止め、さらに生徒が主体的に考え、その結果が反映される授業を展開できるよう、授業改善を図っていく。

エ D工業高校での実践

科目：電子回路 単元：電子回路素子 学年：3学年 人数：15名

本科目のねらいは、電子回路に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てることにある。

本時の授業では、授業における教材づくりに生徒を参加させることにより、授業に対する積極性を高めることを第一のねらいとした。まず、コンビニで電気エネルギーを利用している器具について調査し、その結果から生徒が多く着目した題材を教材とすることにした。その結果、生徒が照明器具に興味を示したことから半導体素子である発光ダイオードを題材として、実際に点灯させる演示実験を取り入れての検証授業を行った。

発光ダイオードの導入として、構造、発光原理、設計及び用途について説明し、点灯回路の設計後、演示実験により発光ダイオードを点灯させてみせた。また、環境問題やエネルギーの諸問題から、発光ダイオードを利用したコンビニの新しい試みについても触れた。

検証授業後のアンケート調査では、総括的にとらえたところ、肯定的な意見は全体の4割程度であり、通常の授業と大きな変化を認めることはできなかった。その原因として、題材は身近であるが、授業の内容は専門的な部分が多く、生徒が授業内容についての情報を多くもっているとは言えず、検証授業の設定に課題があったものと思われる。今後は、生徒にとって身近な情報が有効に活用できる場面を検証し活用の在り方を検討していく。

オ E農業高校での実践

科目：園芸デザイン 単元：色彩の基礎理論 学年：1学年 人数：2クラス計72名

農業科におけるコンビニの教材化は、学校設定科目である「園芸デザイン」にて、昨年までの実際の授業での課題を改善することを目的として行った。ここでの課題は花壇作成・寄せ植え等を行う際に色彩の基礎理論を理解せず、自分の主観のみでデザインを行う生徒が多くいることで、理論に忠実にデザインを行うことの重要性を理解させることである。

まず、コンビニの看板と内装の色を調査させた。これは色の使い方と色のもつ意味を学ばせるために行った。また、これと同時に環境との関わり、農業との関わりの2点を調べさせた。これにより自分の行っている学習が実際に社会（他産業）とつながっているのだと理解させ、今後の学習の動機付けとした。この調査結果により、看板には必ず白が使われていること、内装は白を基調としていることが分かった。また、環境を考えた商品や、農産物の利用などの社会（他産業）との関わりを確認することができた。

実際の検証授業では、調査結果をふまえて「色彩の基礎理論と他産業とのつながり」と題して①白の効果（無彩色、調和を図る、広がり）、②農業とコンビニ（他産業）の関わり

を1時間行った。この結果より、授業内容はほぼ全員が理解し、多くの生徒がコンビニを題材とすることで授業を楽しく感じていると分かった。しかし、生徒一人一人が工夫して授業に参加していると感じているとは言えず、また、新しい発見をしなかった生徒も多かった。これは調査をやり慣れていないことから集計や考察を教員が行ってしまったことや、自ら行っている学習に自信をもてないあらわれであると考えられる。

今後は花壇作成・寄せ植え等にとっていかに色彩が重要かを理解させ、これをもとに積極的にものの見方を養わせるため、自ら調べる活動を増やして、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせたいと考える。

(3) 授業後アンケート

今回行ったすべての検証授業において、授業後のアンケート(図8)を実施した。アンケートでは、コンビニという身近な題材を用いた検証授業に対する生徒の興味や関心の程度を大まかに把握することを目的に実施した。

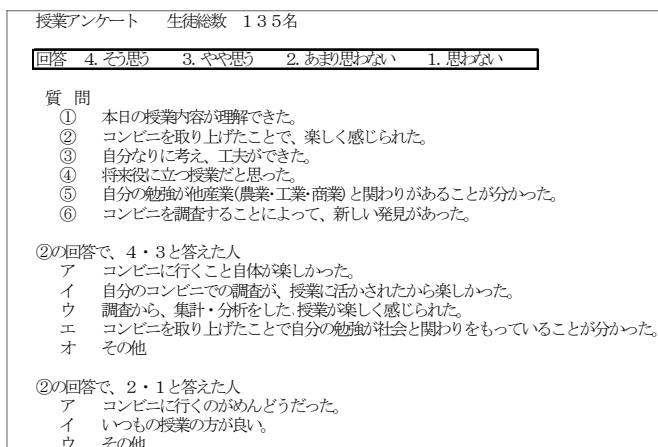


図8 授業後のアンケート

4 まとめ ー授業後アンケートー

授業後のアンケート結果(図9)から、「コンビニを取り上げたことで楽しく感じられた。」に対し約73%、「本日の授業内容が理解できた。」に対し約90%の生徒が肯定的な回答を行っている。このことから、生徒にとって身近なものを教材化するなど、生徒が学習内容などについて判断できる題材を教材とするという試みは、生徒が授業に興味・関心をもつための有効な方法と成り得る可能性を確認することができた。

コンビニを教材としたことが楽しかったと回答した生徒の理由を図10に示す。結果では、コンビニでの調査が授業で活用されたこと(回答のイ・ウ)や自分が学習していることが社会と関わりをもっていることが分かった(回答のエ)ことが全体の80%を超えており、授業に参加できたことや自分が学習している内容が無意味なことではなく、社会に関係が深いことを学んでいるという有益性が確認できたときに楽しく感じていることが分かる。このことは非常に重要なことで、生徒が授業に参加できる工夫

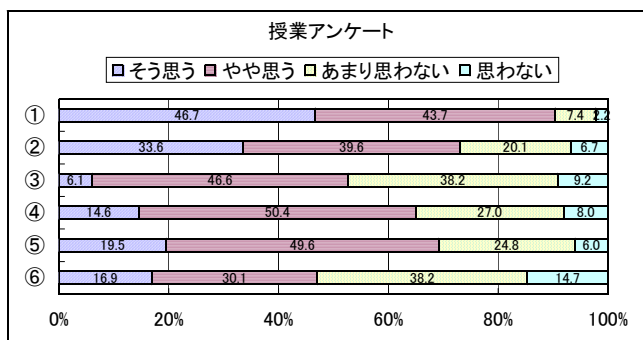


図9 授業後のアンケート調査結果

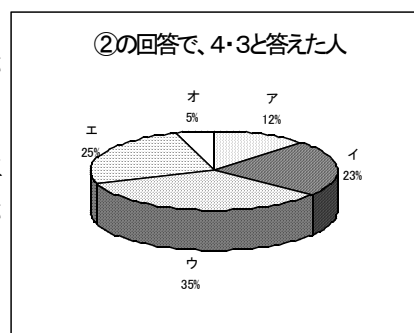


図10 教材が楽しいと思った理由

と学習の意味を理解させることが、生徒の積極的な姿勢を培い、主体性の伸長に深く関わっていることを示唆していると考えられる。

一方で、コンビニを教材とした授業が楽しくなかったと回答した生徒が30%いることにも注意が必要である。理由を図11に示す。今回アンケートからは詳細な情報は得られないが、否定的に回答した生徒のうち20%の生徒は面倒くさい（回答のア）と回答し、75%の生徒が普段の授業がよい（回答のイ）と回答している。特に普段の授業がよいとする回答には今回の授業の改善点が含まれている可能性が高く、今後の授業改善のためにさらに調査を進める必要性を認識することができる。

次に、さらに他の質問に着目すると、「自分なりに考え工夫ができた。」に対し約51%。「新しい発見があった。」に対し約47%の生徒が肯定的に回答をしているが、全体の半数であり生徒の主体性を高めるための工夫が充分でない状況が浮かび上がっている。

これらの結果を総括すると、生徒が情報をもっている身近な教材を利用し、判断できる内容を基本に教材を作成することは、興味・関心を高める点ではある程度の効果が期待できることを確認することができたが、自ら考え結論を得ようとする生徒の主体性の伸長を図るためには、生徒に対する別の働きかけが必要なのではないかと考えられる。このことを課題として、さらに実践的研究を深めていくことが必要ではあるが、ここでは、生徒の主体性を高めるための一つの指導法や教材解釈として、生徒の身近な題材を適切に活用し、工夫することで生徒の授業に対する積極的な姿勢が培われることが確認できた。

5 今後の課題

これまでの専門高校では少人数制や多様な選択科目等に代表されるように、生徒の興味・関心に応じた教育活動が展開されてきた。しかし、その一方で、学習に対する興味や関心がもてずにいる生徒も多いことは事実である。また、進級するにつれて専門的な内容が増え、学習の積み上げを必要とする専門高校にとっては、このことは大きな課題ともなっている。生徒の身近なものから教材を作成し、生徒一人一人に参加しているという意識をもたせることが、この課題に対する一つのアプローチになると私たちは考えた。

これらのことから、身近な教材としてコンビニを取り上げ、各校で生徒が主体性を高める授業を展開した。しかし、社会の変化は著しく、生徒や学校等を取り巻く教育環境も変化し続けている。そこで、私たちは今回の事例に限らず、生徒を取り巻く環境を把握し、生徒の実態や興味・関心に合わせて身近なものを教材化し、個に応じた指導の一層の充実を図ることが、生徒の主体的な教育活動を展開するうえで重要な課題と受け止めるとともにこれが年間の指導計画に位置付けられ、体系的な学習の一環として行うことが必要だと考える。そのためには、生徒の内発的な動機付けをもたらすための働きかけについて、研究を進め、実践的試みの中で評価を繰り返し信頼性を確認することが必要となる。

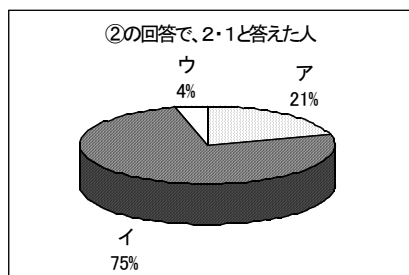


図 11 教材に関心がない理由

V 成果と課題

1 研究の成果

本年度の高等学校「農業・工業・商業」部会は「主体性を高める専門教育のあり方」を共通の研究テーマに設定し研究活動を進めてきた。本部会は「農業・工業・商業」のそれぞれの学科から研究員が参加しているが、部会を農工商と3学科に分けるのではなく、専門教育というもう少し大きな枠でとらえ、研究を進めていくこととした。

研究の進め方として、主体性を高めるための研究の領域を「指導法」「資格取得」「教材開発」に設定し、それぞれを分科会ととらえてグループごとに研究を進めてきた。いずれのグループも、主体性という数値で変容を確認することが困難な概念をいかにとらえるのかが一つの課題であった。

「指導法」のグループでは、専門高校の課題として学習の意義が見いだせない生徒や中途退学者の問題に着目し、生徒に目的意識をもたせることで、学習に対する主体性が高まるとの仮説を設定し研究を進めてきた。グループでは、生徒の目的意識をどのような方法や指導で高めることができるのかが大きな課題であったが、議論の末、「職業に対する考え方」という職業人・社会人としての態度やエチケットを含め、自身の将来や仕事について真剣に考えることを中心とした指導を展開した。その結果、生徒が職業について前向きに考え始めている様子を確認することができた。

「資格取得」のグループでは、資格取得の指導を通して、学習の意義や自身の職業について考える機会を充実させることで、目的意識を高め、さらには学習に対する主体性が高まるとの仮説をたて研究を進めてきた。資格取得のための指導は一方で、合格率を高めることが求められ、受験指導が中心となりがちである。そのような中で、学習の意義や自身の職業について考える指導を展開することは相反する条件となり、適切な指導内容や方法を計画することが一つの課題であった。指導内容や方法については課題も確認されているが、今回の実践で、生徒の学習に対する積極的な態度の伸長を確認することができた。

「教材開発」のグループでは、専門高校での学習の内容が生徒の日常から乖離していることが学習を困難にしているのではないかとの判断から、生徒が考え判断できる題材をテーマに生徒とともに教材開発を行うことで、生徒の学習に対する興味・関心を高め、主体的に学習に参加する姿勢が培われるとの仮説を立て研究活動を展開してきた。学習内容の専門性を確保しながら、「コンビニ」をテーマに教材開発を行うことが課題となった。今回の研究では、学習に対する生徒の積極的な姿勢が培われることが確認できた。

2 今後の課題

今回の研究を通し、一定の成果は得られたものの、指導計画や指導案において、評価の観点の一部不明確であったり、主体性の伸長を確認する方法などに課題が残された。さらに、検証授業の回数にも制限があり、結果に対する信頼性をさらに高めていかなければならない。今後、個に応じた指導の一層の充実を図る中、更に継続した研究と検証を行っていきたい。

平成17年度 教育研究員名簿（ 農業・工業・商業 ）

グループ	学 校 名	氏 名
指導法グループ	東京都立町田工業高等学校	井 上 靖 之
	東京都立八丈高等学校	加 藤 幸 弘
	東京都立田無工業高等学校	○ 笹 崎 ひろみ
	東京都立八王子工業高等学校	田 中 和 夫
	東京都立深川商業高等学校	○ 吉 田 祐 一
資格取得グループ	東京都立科学技術高等学校	佐 藤 正 人
	東京都立荒川商業高等学校	田 村 成 秀
	東京都立農業高等学校	○ 御園生 秀 樹
	東京都立向島商業高等学校	矢 野 紘一郎
教材研究グループ	東京都立園芸高等学校	○ 小野寺 伸 樹
	東京都立赤坂高等学校	桜 井 伸 一
	東京都立向島工業高等学校	佐 竹 正
	東京都立練馬工業高等学校	◎ 檜 山 清 幸
	東京都立桐ヶ丘高等学校	山 本 弥 生

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 池上 信幸
指導主事 中川 博英

平成17年度教育研究員研究報告書	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 東京都教育委員会印刷物登録 平成17年度 第12号 </div>	
平成18年1月16日	
編集・発行	東京都教職員研修センター
所在地	東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号	03-5434-1974
印刷会社名	株式会社 今 関 印 刷